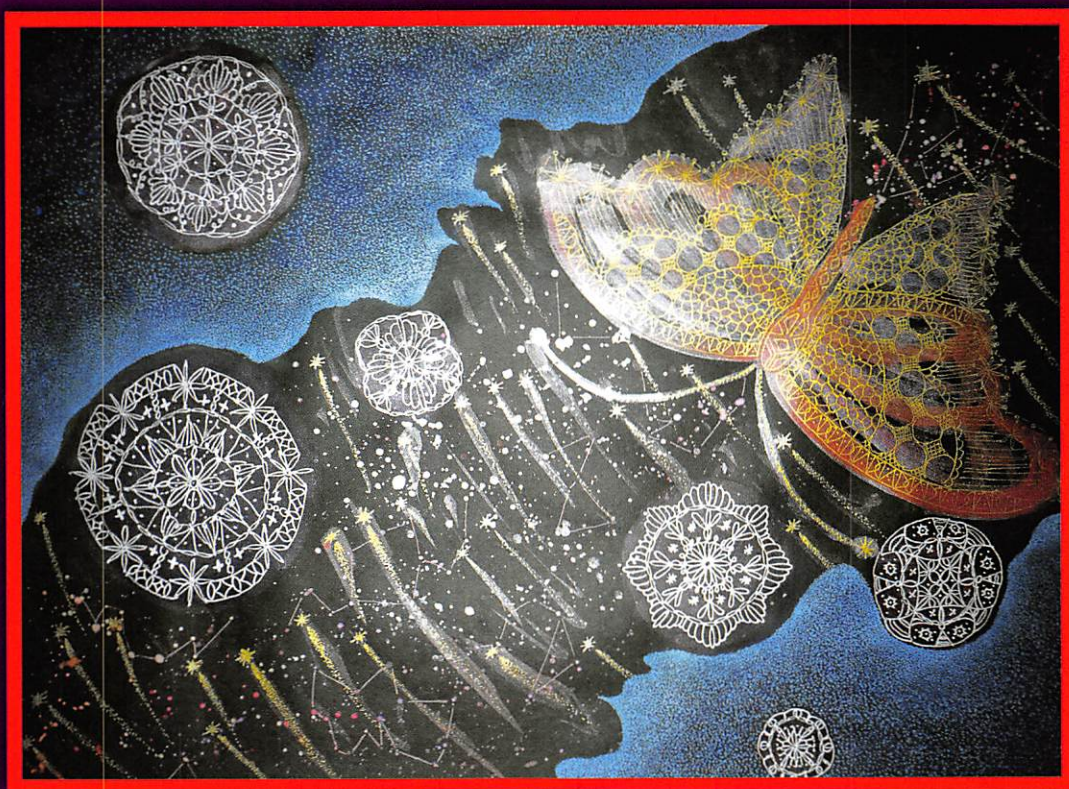


秋田県教育研究会  
秋田県造形教育研究会



2017.3

NO.53 (平成28年度)

造形 秋 田







## 秋田スタンダードのアプローチ—秋田から発信する「造形のチカラ」

秋田県造形教育研究会

会長 佐々木 彰 子

平成28年度「造形秋田」の発刊にあたり、編集及び執筆に携われた皆様のご協力に心から感謝申し上げます。また、今年度の秋田県造形教育研究会の活動及び各地区造形教育研究会における活動に際しまして、皆様の児童生徒・学校・地域に寄せる熱い情熱に心から拍手を送ります。誠にありがとうございました。

さて、今年度は、第41回秋田県造形教育研究大会南ブロック（横手）大会が、研究テーマ「生きる輝き つくりだす喜び ～思いを広げ、深めるための造形活動における言語活動のあり方～」のもと、11月4日に開催されました。当日は、ご来賓として横手市教育委員会教育長 伊藤孝俊様のご臨席を賜り、県内各地から造形会員のご参集を得て、横手市立朝倉小学校及び横手市立横手北中学校を会場に表現領域・鑑賞領域の公開授業、横手市立朝倉小学校を会場に開・閉会行事、絵本作家 鈴木永子氏のご講演「私の絵本づくり - ある女の子との出会い」、実践発表・協議が盛会裏に行われました。

横手の子どもたちが堂々と思いを豊かに表現する姿がすばらしく、感性を磨く造形教育研究が活発な協議で進み、実り多い充実した研究大会になりました。誠にありがとうございました。

これまで大会準備や運営にあたられました横手市造形教育研究会をはじめ、南ブロック会員の皆様のご尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。

次に、今年度の全国大会及び東北大会について、概略を報告します。

第69回全国造形教育研究大会宮城大会・第61回東北造形教育研究大会宮城大会  
11月10日（全体会：仙台市民会館）・11日（校種別分科会：仙台市内8会場）

造形美術教育においては、これからの国際社会を生きる感性や創造性、情操を高めるそれぞれの発達段階に応じた教育実践が求められています。各校種における造形美術教育を生涯学習へと発展させ、心豊かな人格の形成につながる活動を充実させることが全国造形連盟の重要な役割です。子どもたち一人一人の豊かな人間性の形成を目指し造形美術教育の充実発展を図り、果たすべき役割を社会に普及・啓発するため、次の方針を進めます。

- ①次期学習指導要領改訂に向けて関係団体等との連携を図り、造形美術教育の意義を明確化した活動の展開を図る。
- ②各校種、美術館、関係団体等との連携を深め研究実践を支援する。
- ③全国大会の運営改善に関する検討を図り大会開催など全国の園・学校や美術館等が連携した活動体制を目指す。
- ④造形美術教育を活かし震災被災地等の支援活動を継続する。
- ⑤造形美術教育による人格形成の意義や重要性を発信する。（HP、小中学校必修教科としての図画工作及び美術、作品展等の積極的な支援）

なお、今後の予定は、つぎのとおりです。

平成29年度予定	・第70回全国造形教育研究大会長野大会 ・第62回東北造形教育研究大会山形大会
平成30年度予定	・第71回全国造形教育研究大会秋田大会 ・第63回東北造形教育研究大会秋田大会

いよいよ、平成30年度全国大会秋田大会に向けて、大きく踏み出しました。夏と冬の全体研修会では、研究大会組織を形成し、前文部科学省教科調査官 奥村高明氏からは、たいへん中身の濃い実践的な授業・教育研究の示唆を受けて、創造的な議論が展開されました。奥村氏からいただいた秋田の教育への期待に応えるべく、ますます精進して参りましょう。なお、秋田県造形教育研究会の全国大会までの研究骨子を審査に提出したところ、このたび言語教育振興財団から研究助成事業授与の栄誉を得ましたことも報告します。

また、平成28年度第57回秋田県児童生徒美術展は、秋田県立美術館を会場に立体部門を復活させて3年目の開催となりました。秋田市会員の皆様の多大なるご協力に心から感謝申し上げます。児童生徒が美術文化への憧れをもち、学ぶことやつくりだすことの楽しさと喜び、自信や誇りをもつ機会を与えるとともに、秋田県民の皆様に、造形美術教育による人格形成の意義や重要性を発信する場ともなっております。

「本物の美術館」に本県の子どもたちの作品が展示され、開催期間中は小中学生やご家族、そして子どもの成長を喜ぶ県民の皆様が集い、毎日たくさんの人出で賑わいました。自他の作品をまぶしそうに見つめる紅潮した表情の子どもやその様子を優しく見つめる大人たち一。学力日本一の秋田がめざす文化力は、こんな幸せな光景でありたいものです。

学習指導要領改訂は、「育成すべき資質・能力」の論点整理を経て、教育現場において図画工作・美術の指導研究で議論されていくことでしょう。研究を焦点化・視覚化・共有化していく秋田県造形教育研究会の一人一人が、オール秋田のチームの一員です。

秋田スタンダードのアプローチは、いよいよ本格始動の段階へ進みます。秋田から発信する「造形のチカラ」のなお一層の充実を期待し、巻頭言とさせていただきます。

# 造形 秋 田

No.53

## 目 次

### 巻頭言

各郡市造形教育研究会の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第57回 秋田県児童生徒美術展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第57回 秋田県児童生徒美術展 話題作一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

### 研究の記録

第41回秋田県造形教育研究大会 平成28年度南ブロック(横手)大会・・・・ 19

第69回全国東北造形教育研究大会宮城大会・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

平成28年度 秋田県造形教育研究会役員・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

表紙絵 “宇宙散歩”  
加 藤 千 智 (秋田北中学校)  
裏表紙 くるりんくるくるの家  
おおとしゅう (内小友小学校)



---

## 各郡市造形教育研究会の活動報告

---



組織 会長 木村 伸 (花輪第二中学校校長)  
 副会長 金澤 裕子 (小坂中学校教頭)  
 事務局 (会計) 田中 繁子 (花輪小学校)

## 主な事業

・平成28年度総会	4/22	・夏季研修会 (木工工作実習)	8/23
・鹿角中学校教科授業研究会	11/11	・鹿角小・中・高合同美術展	1/18~1/23
・県児童生徒美術展鹿角地区審査会	12/8	・作品を見合う会	1/23

## 研究会の記録

- 8月23日、鹿角市立十和田中学校美術室にて夏季研修会を行った。午前中は、中学校授業研究会の授業構想や当日の内容などについて協議を行い、午後、小学校の会員も加わっての研修会を開催した。小・中合わせて9名の参加であった。全国木工工作コンクールに向けて指導者の研修を行うことを目的として、端材でできそうなものを考えて制作するという内容であった。材料の端材は大館市カネサン製材所のご厚意で用意できた。参加者は、思い思いの作品を自由に制作したり、お互いの作品を鑑賞したりしながら、木工工作活動を楽しむことができた。
- 11月11日の鹿角中学校教科授業研究会は、十和田中学校の澁谷千里先生が、2年生「心に届けるメッセージのデザイン～コマ撮りアニメーション～」の授業を行い、小・中・高の先生方が参加して研修が行われた。タブレットPCを活用しての動画制作の授業であった。生徒たちの関心の高い題材であったため、それぞれ意欲的に活動していた。新しい分野への挑戦という点で、有意義な授業研究会となった。
- 12月8日、県美術展に向けて、コモッセ (花輪市民センター) にて地区審査会・研修会を行った。今年度は、小・中合わせて196点の作品が出品され、そのうち68点が優良賞となった。各学年とも多様な表現方法で、工夫された作品が多かった。



▲【8/23：夏季研修会】



▲【11/11：  
中学校教科  
授業研究会】



▲【12/8：県美術展鹿角地区審査会・研修会】





組織 会長 永井孝久(山瀬小学校)  
副会長 嘉藤貴子(合川中学校)  
事務局 コリガン麻衣(北陽中学校)  
研究部 工藤明美(鷹巣中学校)  
会計 山崎真紀子(鷹巣南中学校)

藤嶋聖人(鷹巣南小学校)  
佐々木亜希子(大館第一中学校)  
三澤正敏(山瀬小学校)  
佐々木由美(比内中学校)

## 主な事業

大北造形研究会総会(4/14)

会場: 田代公民館

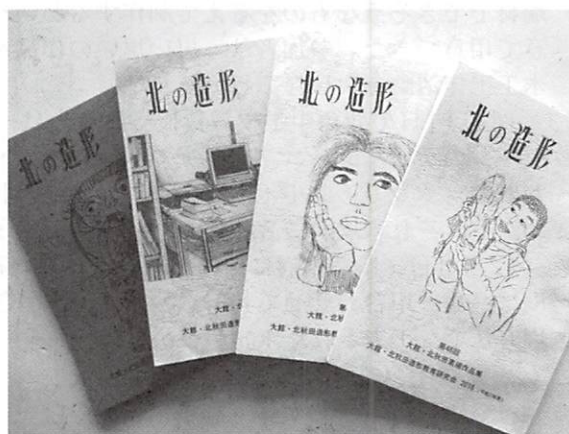
秋田県児童生徒美術展地区審査会  
素描集「北の造形」第49集審査会  
及び研修会(11/25)

会場: 田代公民館

第39回絵を見て語る会

素描集「北の造形」第49集発刊・配布  
(1/20)

会場: 田代公民館



【歴代の「北の造形」冊子】

## 研究会の記録

○秋田県児童生徒美術展地区審査会・素描集  
「北の造形」第48集審査会及び研修会

今年度の児童生徒美術展への出品作品数は、小学校343点、中学校509点で、優良に選ばれたのは小学校103点、中学校149点であった。初めて造形研の会員になる先生方もいらしたので、作品の見方研修として①こどもの心があふれている作品(自分の気持ちをいかに素直に表現しているか)②創意工夫や新しい表現に挑戦している作品(その子ならではの表現・その子なりに工夫した表現がされているか)③のびのびとして勢いが感じられる作品(子供の目の高さに教師の目をもっていかなければならない)ということを確認した。

中学校の審査では各校の美術科の先生がそろっているため、どのような題材でどのような表現をしたかを話題にし、題材研究も兼ねながら審査することができた。小学校の審査では、子どもの気持ちを想像し、のびのびとした表現を味わいながら審査することができた。その一方、担当した先生がいない場合は、どのような題材であったかを確認できず、教科書の作品そのままではないか、〇〇式に偏っていないかなどを確認できない場合もあった。また、立体作品の出品は中学校4点にとどまった。今後の実技研修会や絵を見て語る会などの事業を通じて、図工・美術の題材設定や立体作品についての研修を深めていきたいと考えている。



組織	会長	佐々木 彰子 (二ツ井小学校)	長 浜 笑子 (能代第二中学校)
	副会長	明石 まき子 (浅内小学校)	越 前 芳広 (金岡小学校)
	会計監査	芹田 亨 (常盤中学校)	
	事務局	渡部 悦子 (東雲中学校)	
	理事	越後谷 知子 (崇徳小学校)	畠 山 和子 (向能代小学校)
		中村 紀幸 (下岩川小学校)	伊 藤 康子 (浜口小学校)
		伊藤 葉子 (第四小学校)	田 中 絵里奈 (山本中学校)
		岩谷 修一 (八竜中学校)	
研修班		田森 舞 (能代第一中学校)	芹 田 亨 (常盤中学校)
		越前 芳広 (金岡小学校)	大 山 祐子 (金岡小学校)
		小森 哉子 (常盤小学校)	豊 田 良香 (向能代小学校)

主な事業

○夏季研修会「小・中・高連携による造形活動」  
 高校生が布に描いた水の作品から  
 イメージを膨らませてのアンサー作品づくり  
 「スイミーはどこを泳いでいるの？」  
 シーツ・シアター (2016夏)」  
 7/28

○授業研究会Ⅰ 能代市立二ツ井小学校  
 「スイミーのなかまたち」 (小2) 9/29  
 ○授業研究会Ⅱ 能代市立朴瀬小学校  
 「見つけたことを話してみよう」～「風神雷神図屏風」 (小6)  
 11/2  
 ○秋田県児童生徒美術展審査会 12/9  
 ○能代地区高校美術作品展への出品協力  
 「小・中・高連携による造形活動」 2/18～2/19

研究会の記録

○夏季研修会「小・中・高連携による造形活動」

高校教員によるワークショップに、小中教員が参加する研修会は5年目となる。テーマは「スイミーはどこを泳いでいるの？ シーツ・シアター (2016夏)」である。高校生が制作したシーツに描いた平面作品から会員各自がイメージを膨らませて、作品の中で泳ぐ「海の生物」を制作し、相互の作品の空間構成を仕掛け、造形の妙を楽しんだ。次の段階では、各校で児童生徒に同様のワークショップを展開して造形した作品を持ち寄り、2月に行われる能代地区高校美術作品展では、高校生が小・中・高の作品群を展示構成して、「小・中・高連携による造形活動」のアンサー作品が展示される予定である。

○授業研究会Ⅰ

二ツ井小・中村和人教諭による題材名「スイミーのなかまたち」(2年)の授業研究会を提供していただいた。前述のシーツシアターの作品の中から気に入ったものを選択し、そこに住む生物を想像してつくる内容であった。作品を鑑賞し合い、友達の「いいね」を共有する場面を設定していた。授業研究WSでは、材料の豊富な準備や、全ての児童が制作に夢中になって取り組み、自分の作品に満足するUD授業が話題になった。

○授業研究会Ⅱ

朴瀬小・佐々木逸人教諭による題材名「見つけたことを話してみよう～風神雷神図屏風」(6年生)の授業研究会を提供していただいた。俵屋宗達の実物大の屏風を蠟燭の灯で鑑賞したり、キーワード(動き・奥行きなど)をもとに気付いたことを学習リーダーが中心となって話し合ったりする内容であった。近隣の小学生が考えた風神・雷神の会話を紹介することで、少人数学級が触発され、考えに深まりがみられた。



【会員のアンサー作品】



【授業研究会Ⅰ 二ツ井小学校の授業風景】



【授業研究会Ⅱ 朴瀬小学校の授業風景】



組織 会長 桐生 登志夫 (船川第一小学校)  
副会長 田村 稔 (男鹿南中学校)  
事務局 上田 環 (船川第一小学校)

## 主な事業

造形部総会 (4/13)

男鹿市校長会教科部会研修会 (10/12)

男鹿市児童生徒美術展審査会・展示・研修会 (11/25)

男鹿市児童生徒美術展 (11/26~12/8)

## 研究会の記録

(1) 研究主題 よさや美しさを感じ取り 想像力を働かせ表現する子どもの育成

(2) 活動の概要

### ① 教科部会

今年度は図工・美術を指導した際の実践発表と作品紹介、および指導助言を仰ぐ研修を行った。指導助言は副会長 田村 稔氏である。実践発表は以下のような内容である。

- ・低学年に平面作品を取り組ませる時の悩み
- ・多色刷りで、色を載せたり彫ったりする順番の工夫
- ・生活科と図工を関連させた作品
- ・子どもにとって有効な鑑賞シートや作品を丁寧に扱う工夫
- ・子どもに満足感をもたせるために、機器を利用した作品づくり
- ・学級経営が反映する造形遊び
- ・スタンピング、吹き流し等の技法からイメージをもたせる工夫
- ・苦手意識を解消させるため、プリントアウトしたものを見せて描く工夫
- ・「鳥獣人物戯画の鑑賞」の模擬授業

日頃の悩みを共有し合ったり、各校の取り組みや実践を聞いたりして、大変参考になった。いずれも、子どもたちの生活を豊かにしていく図工・美術である。明日からの授業に活かしていきたい。

### ② 作品展の審査と鑑賞指導

今年度は学校統合のため、大幅に作品数が減少したが、今回の作品展も幅広い造形要素が見られ、ダイナミックな発想から生み出されたものばかりであった。ふるさと男鹿を題材にしたものや、発想豊かな作品が目立った。中学校では共同作品の分野もあり、学級経営に活かすことができる見応えのある作品もあった。また、審査を交えながら作品を観るときのポイントを研修することができ、指導技術の情報交換もできた。



組織 会長	加藤 順子 (東湖小学校)		
副会長	佐藤 恵 (八郎潟中学校)		
運営委員	伊藤 晃 (八郎潟小学校)	菅原 恵 (五城目小学校)	
	小林 博子 (五城目第一中学校)	近江 和佳子 (天王中学校)	
事務局	都留 賀津人 (天王南中学校)		

## 主な事業

・総会	4/13 (水)	・運営委員会	6/1 (水)
・夏休み造形教室	8/4 (木)	・教科等研修会	11/2 (水)
・子どもの絵を語る会	12/6 (火)		

## 研究会の記録

(1) 研究主題 よろこび・わくわく 新たな発見 ～キラリ感じてつなげる, 広げる～

(2) 活動の概要

### ① 夏休み造形教室

- ◆会場 五城目町 野鳥の森
- ◆内容 木の実, 木の枝などを生かした立体作品の制作
- ◆対象 潟上・南秋地区の小学生
- ◆所感 学校ではなかなか得られない子どもの興味を引く豊富な自然素材と充実した工具の他, 今年度は製材所の協力を得て, 多様な端材等も用意できた。子どもたちは, 自然豊かな環境のもと, 材料から豊かに発想し, 必要に応じて造形部員のアドバイスを受けながら, 自分の思いを生かした作品作りを楽しんでいた。



### ② 教科等研究会

- ◆会場 羽城中学校 美術室
- ◆内容 実技演習「陶芸」
- ◆講師 陶芸工房 花宵 (かしょう) 伊藤 久美子 先生
- ◆所感 小中学生の体験教室なども開催している専門家の指導のもと, 土練りや手びねりによる作陶を行った。授業に陶芸を取り入れている学校もあるが, 中には初めて体験するという部員もあり, 終了後, 「なかなかうまくいかず困っている子どもの気持ちが分かった。」という声もあった。指導される立場で演習を行ったことにより, 自分の思いを生かしてつくる喜びを感じたり, 改めて支援の在り方などについて考えたりする機会となった。

### ③ 子どもの絵を語る会 (秋田県児童生徒美術展地区審査会)

- ◆会場 潟上市 昭和公民館
- ◆内容 県児童生徒美術展の作品審査, 児童生徒による造形作品の評価の在り方についての研修
- ◆所感 作品に込められた児童生徒の思いや, 作品作りの様子などについて話し合う中で意見交換しながら審査を行った。絵や立体作品の捉え方, 授業づくりや指導技術についての情報交換など, 審査の枠を超えた話し合いも自然になされた。



組織 会 長 鎌 田 悟 (太 平 中 学 校)	工 藤 圭 子 (秋 田 東 中 学 校)
副 会 長 榎 実和子 (外 旭 川 小 学 校)	菊 地 有 希 子 (大 住 小 学 校)
事 務 局 鎌 田 政 美 (土 崎 中 学 校)	大 野 由 加 里 (旭 南 小 学 校)
三 浦 直 樹 (秋 田 北 中 学 校)	齋 藤 未 樹 (御 野 場 中 学 校)
幹 事 小 林 さ お り (秋 田 南 中 学 校)	
会 計 伊 藤 知 佐 子 (泉 中 学 校)	

## 主な事業

美術鑑賞研修会 もうひとつの輝き  
「最後の印象派」展  
秋田市千秋美術館／5月18日

大森山動物園  
第39回 親と子のふれあい写生大会  
(大森山動物園と共催／7月23・24日)

秋田県児童生徒美術展 秋田市審査  
(土崎中学校／12月3日)

クロッキー巡回展：市内各小学校  
(審査：大住小学校／12月26日)

## 研究会の記録

- 全市一斉授業研究会 (中学校) 10 / 19 (水) 泉中学校 伊藤 知佐子 先生

題材名 「情報が見える～人にやさしいデザイン～」

ロゴ・マーク、ピクトグラム、エンブレム、地図記号、校章、路標識、家紋、紋章などのマーク等を鑑賞する授業であった。東京オリンピックのエンブレムの問題が生徒たちの中でも話題になり、様々なマークへの興味・関心が高まりつつあることから、多種多様なマークの意味やよさに迫るために、それらを分類しながら感じたことを話し合った。実際に手にとってマークを机上で分類できるよう、各種マークを班毎に用意し、分類しながら話し合い、成果をホワイトボードに掲示して発表することで、デザインの目的や機能、色や形の美しさを感じ取ることができていた。

- 全市一斉授業研究会 (小学校) 11 / 9 (水) 川尻小学校 佐藤 晃子 先生

題材名 「おしゃべり美術館」

美大の教授から作品を借用し、作者の楽しい思い出をもとにして描かれた絵を、子どもたちが自分なりの見方で鑑賞し、身の回りの造形作品に親しみをもって接する心を育てる題材であった。形や色の美しさ、モチーフなどに目を向けながら絵を鑑賞した後、自分がとらえた作品の意図について話し合う活動を行った。子どもたちは、互いの感じ方の違いや面白さを楽しんだり味わったりすることで、造形活動への意欲を高め、共通事項に沿った観点で資質能力を高めていた。

- 水曜研修会 2 / 1 (水) 秋田市教育研究所

実践発表

仁井田小学校 永田 縁先生 「低学年における鑑賞活動」

秋田東中学校 工藤 敬子先生 「自画像の実践を通して」

小・中一名ずつの貴重な実践を聞く機会となる研修となった。発表を通じて新学習指導要領や全国大会に向けた授業づくりなども視点とし、実際に作品を見ながらの活発な質疑応答・意見交換がなされた。





組織	会 長	石 井 真理子 (象 潟 中 学 校)
	副 会 長	赤 川 祐 輝 (矢 島 中 学 校)
		安 保 純 (仁 賀 保 中 学 校)
	事 務 局	木 内 衛 (本 荘 北 中 学 校)
	研 究 部 長	関 口 琢 也 (象 潟 小 学 校)
	会 計	須 田 秀 二 (由 利 中 学 校)

## 主な事業

平成25年度造形部総会	4/13	造形部研修会	12/9
本荘由利児童生徒美術展	12/3~5	その他	本荘由利小・中・高等学校の図画工作・美術の研究授業への参加(各校研究授業等)

## 研究会の記録

### 1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の作品がどうあるべきかを考察すること、また、教科別研究集会や研修・研究部会・児童生徒美術展・県児童生徒美術展平面作品審査への参加など、様々な形で積極的に研修に参加することを、当会の具体的な目標とした。

特に、児童生徒美術展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。また、奨励作品の審査・選出を通して作品の見方や造形活動の在り方について協議する活動の意義は大きい。

### 2. 各事業の成果

#### (1) 本荘由利児童生徒美術展 (12月3日~5日)

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「描くこと・つくるのが大好き」を反映した個性豊かな作品が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

出品作品の中から造形部がめざす作品を「奨励賞」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容共により充実した展覧会となった。カダーレを会場として実施するのは5回目ということで、3日間で1804名の来場があり、多くの方々に見ていただけた。

来年度は開催期間や広報活動、今年度実施した会場構成や作品管理の常駐を軌道にのせ、さらに地域の方々へ親しんでいただける展覧会にしていきたい。

#### (3) 造形部研修会(12月9日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開審査会として行った。26年度から立体作品の審査も行っているが、今年度から各校の出品数を事前に報告してもらうことで審査時間を短縮することができた。また、出品作品の保管も課題であったが、各校の協力により当日の審査後に再度作品を取りに来ていただくことができ、部員の負担を減らすことができた。

造形部員にとっては、児童・生徒の作品の傾向・良さ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

#### (4) 本荘由利小・中・高等学校の図工・美術の研究授業への参加

造形部研究部長より本荘由利の小・中学校における年間の図工・美術の研究授業(要請訪問・教科等指定訪問)の一覧表が造形部員に配布され、一覧表を見て造形部員が希望する授業を参観するようにしている。高等学校会場の参加機会も含め、分科会にも積極的に参加するように勧めている。

組織 会 長 小 林 高太郎 (神代中学校)  
事務局 木 村 伸 (大曲中学校)  
研究部 渡 邊 真理子 (大曲中学校)

## I. 研究について

### 1. 研究の方向

今年度も「思い豊かで楽しくてたまらない造形教育を求めて」という研究テーマを基に、会員共通の視点をもって授業に臨み、授業改善につなげていった。

### 2. 研究の重点

授業改善に向けた研究の重点を「自ら表したいこと・考えたいことを見つけさせる指導の手立て」として、授業での導入時の引きつけ方、材料提示の工夫、制作途中での参考作品の見せ方など、改善ポイントを挙げ、各会員が授業において意識して実践すると共に意見交換の場を設けて研修を深めた。

### 3. 研究内容

#### ○夏季研修会

7月27日(水)、仙北ふれあい文化センターにおいて夏季研修会を実施した。仙教研研究大会会場校の授業者との意見交換では当日の授業に関する協議を行った。また、授業実践事例を持ち寄り、会員相互の意見交換を行った。

#### ○仙教研研究大会

10月26日(水)、大仙市立清水小学校、大仙市立中仙中学校を会場に研究大会が行われた。小学校は2学級、中学校は1学級の授業提示が行われ、その授業の研究協議では生徒に授業のめあてを示すための手立てなどについて話し合われた。全体会の講話では全国大会に向けて研修を深める必要性を再確認した。また、会員が各々授業実践のレポートを持ち寄り、意見交換を行った。



### 4. 成果と課題

夏季研修会の話し合いでは、小学校会場校の授業者が会員でないため、計画段階で様々な不安を抱えていたのだが、会員からのアドバイスによって、大会当日の成功につながる自信が得られた。

中学校会場校の授業者も同様に会員から得られたアドバイスを当日の授業に生かした。

研究大会では各学年の児童生徒一人一人が自分の思いをもって活動した授業提示となった。研究協議では、この授業を通してどんな力をつけたいのかという主題設定の大切さ、児童生徒へのめあてのめあて等が話題となり、今後の授業改善につなげるための課題であると感じた。また、研究の重点として今年度取り組んだ内容は、来年度も継続していければと思う。

## II. 関連行事

### 第47回大曲仙北児童生徒美術展

期日：11月19日(土)～20日(日)

児童生徒数の減少に伴い、出品点数は減少傾向だが、出品作品は多種多様であり、表現レベルも向上していたように感じた。児童生徒が各々の作品に対し、自己の心情や考え、イメージを基に表現したいことを意識して制作された作品が多数あったが、これは指導者が児童生徒の内面に重点を置いた授業を展開すると共に、制作意欲を引き出し、思いを作品で表現するための働きかけが工夫された成果と思われる。前述した仙教研研究大会での授業演示の様子を紹介するビデオ上映も行われた。

### 秋田県児童生徒美術展への出品と搬入・展示

秋田県立美術館での開催となって数年が経過し、会場のスペース配分等を把握したため、作品の展示では効率良く作業を行うことができた。また、郡市美術展での展示ノウ・ハウが活かされ、作品の良さを引き立たせる展示ができた。今後も大曲仙北の「思い豊かで楽しくてたまらない」授業実践によって制作された作品の数々から、図工・美術の大切さ、楽しさを多くの人に伝えていきたいと考えている。



組 織 会 長 奥 秀 輝 校長 (朝倉小学校)  
副 会 長 草 彌 昇 教諭 (増田中学校) 佐 藤 稔 教諭 (横手南中学校)  
研 究 部 長 柴 田 緩 子 教諭 (平鹿中学校)  
事 務 局 高 橋 輝 樹 教諭 (横手北中学校)

## 主な事業

- ・つくってあそぼう 大雄農業者トレーニングセンター (9月17日)
- ・第41回秋田県造形教育研究大会南ブロック (横手) 大会  
朝倉小学校, 横手北中学校 (11月4日)
- ・第42回横手市児童生徒美術展・《横手駅前交流センター》Y<sup>2</sup>ぷらざ1F (11月25日～28日)
- ・第57回秋田県児童生徒美術展・横手地区審査会 (11月28日)

## 研究会等の記録

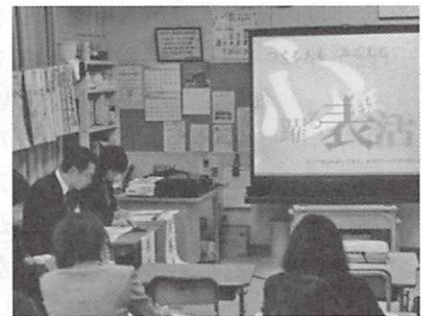
・「つくってあそぼう」は横手市子ども会育成連合会が主催の活動で、横手市造形教育研究会も『図工あそび』ブースを提供しました。内容は、紙粘土でマグネット作りや、プラ版シートを使ってキーホルダー作りの各コーナーで子供達と造形を楽しみました。親子で工夫して楽しみながらつくる姿が印象的でした。



【歴代の「北の造形」冊子】



鈴木永子氏の記念講演風景



研究協議のようす

・11月4日、横手市の朝倉小学校と横手北中学校を会場に90名の参加者のもと第41回秋田県造形教育研究大会南ブロック (横手) 大会が行われました。「生きる輝き つくりだす喜び」～思いを広げ深めるための造形活動における言語活動のあり方～をテーマとする研究会でした。記念講演は横手市出身の絵本作家、鈴木永子氏による様々なエピソードを交えた心温まるお話で、会場は和やかな雰囲気に包まれました。県内各地からのご参加、ご指導により盛会に終えることができ、感謝しております。平成30年度の全国大会に向けた一足となれば幸いです。

・第42回横手市児童生徒美術展は11月25日～28日の4日間、横手駅前Y<sup>2</sup>ぷらざで実施されました。小中学校25校の力作約650点が会場を盛り上げました。他校との情報交換や、題材研究の場としても、有意義な空間となりました。会場をY<sup>2</sup>ぷらざとしてから4年目になりますが、横手駅前ということもあり、多くの方々に作品を見ていただきました。



組織 会長 加藤 久夫 (湯沢南中学校)  
 副会長 阿部 悦子 (山田小学校)  
 事務局 三浦 秀巳 (羽後明成小学校)  
 会計 鈴木 陽 (稲庭小学校)

井上 晴子 (湯沢西小学校)

主な事業

・ 郡市教育研究会総会：研究テーマ、活動計画役員の決定 4/13

・ 第1回役員会：県造形研南ブロック大会への協力体制について 6/20

・ 第2回役員会：秋田県児童生徒美術展地方展について 10/26

・ 県美術展審査、地方展開催、撤去 11/17～11/21

・ 会誌「このゆびとまれVol. 16」 2月上旬製本・発送

・ 第3回役員会：事業反省、平成29年度の事業内容について 2月中旬

研究会の記録

◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地方展より

総出品数298点 (小学校203点・中学校95点) のうち、89点を本都市の優良作品として県に推薦した。学校の統廃合により、2年前と比較して100点ほど出品数が減少した。平面・立体の出品数および優良数は右の通り。

	平面		立体	
	小学校	中学校	小学校	中学校
出品数	203	82	0	13
優良数	60	25	0	4
合計	85		4	

今年度の審査講評から特記事項を抜粋する。

(低学年) 楽しんで絵を描いている様子が伝わってくる。色を混ぜたり重ねたりする技術の向上が見られ混色した色彩が美しい。

(中学年) 独創的な形、カラフルな色合いで、感性を生かして思い切って描いている。自分のテーマを存分に表している。

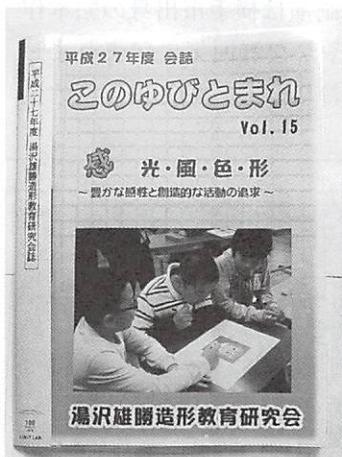
(高学年) 版画についての取組が充実しており、彫り進み版画一版多色刷、スチレン版画など多様な技法が見られた。

(中学校) 斬新な視点で描いている風景画、イメージの広がりを感じられる空想画、自分の思いを様々な技法によって表現した自画像など、学習の蓄積が感じられる作品が多かった。



〈画像は審査の様子〉

◎会誌作成



今年度で16巻となる。授業実践を中心に、造形に関する思いなどを自由に表現している。

モノクロからカラーへ、冊子からファイル形式へ。巻末にはその年に提示された授業・研究協議の様子や研修内容なども掲載し、内容も年々充実してきている。

今年度は、本都市の研修の一環として県造形研南ブロック大会に参加し、実践発表・記録等で協力させてもらった。

今後も個々の研修をさらに深め、湯沢雄勝の造形を充実させていきたい。





# 第57回 秋田県児童生徒美術展

期 間：平成29年1月7日（土）～10日（火）

会 場：秋田県立美術館県民ギャラリー

4日間とも開館時間帯は、10：00～17：00

- 主 催 秋田県教育研究会造形部会  
秋田県造形教育研究会
- 後 援 秋田県教育委員会 秋田市教育委員会  
秋田魁新報社 NHK秋田放送局  
A B S秋田放送 A K T秋田テレビ  
A A B秋田朝日放送

応募数	平面の部		
	出品総数	3,812点	優良作品 1,162点
	推奨作品	113点	話題作 38点
入場者数	3,262人		

# 話題作一覽

（魁掲載）作品 ～平面の部・立体の部～

学年	題名	学校名	氏名	地区
幼保	いもほり	聖園幼稚園	石 黒 渚	秋 田
	一寸法師になりたいな	上宮第二幼稚園	小 野 明 莉	横 手
小1	ダイヤやまあらしのなかよしおや子	尾崎小学校	す 田 り く	本 荘 由 利
	たのしいうんてい	綴子小学校	お の は る と	大 館 北 秋
	きょうりゅうと森のたんけん しゅっぱつだー！！	船川第一小学校	みうら けんしろう	男 鹿
	もくずしょいとおよいだよ	須川小学校	小 嶋 陸 斗	湯 沢 雄 勝
小2	うちゅうの木	秋大附属小学校	土 岐 凌 生	秋 田
	くるりんくるくるの家	内小友小学校	おおとも しゅう	大 曲 仙 北
	海の中はとっても楽しいな	新山小学校	いとう こうう	本 荘 由 利
	大きな大きなひまわり	皆瀬小学校	中 山 なつき	湯 沢 雄 勝
小3	しあわせの園	湯沢西小学校	東海林 晏 夏	湯 沢 雄 勝
	くらげとぼうけん	鷹巣小学校	藤 嶋 愛 花	大 館 北 秋
	不思議な世界～宇宙人がぼくをさがしにきた！～	米内沢小学校	鈴 木 蒼 大	大 館 北 秋
	にじ色の魚のさんぽ	石沢小学校	佐 藤 隼 琉	本 荘 由 利
小4	公園で星空と遊んでいる花	大住小学校	鈴 木 達 也	秋 田
	ぼくらでかくれた秋の空	南小学校	虻 川 祐 次 朗	大 館 北 秋
	ゆかいな木	大内小学校	伊 藤 羽 琉	本 荘 由 利
	お気に入りの場所	生保内小学校	住 吉 真 奈	大 曲 仙 北
小5	漂流船	中通小学校	植 木 香 太 郎	秋 田
	森の王様4匹の大蛇	太田東小学校	藤 澤 知 央	大 曲 仙 北
	ぼく ピカソ	植田小学校	齊 藤 臣	横 手
	クレマチス	湯沢東小学校	高 橋 彩 夏	湯 沢 雄 勝
小6	休み時間にのぞいた玄関	牛島小学校	佐 藤 こ な み	秋 田
	白の世界～みんなの挑戦～	西明寺小学校	佐 藤 紋 音	大 曲 仙 北
	大迫力のハリストス教会	前田小学校	土 佐 み の り	大 館 北 秋
	カトリック教会	鷹巣南小学校	佐々木 智 矢	大 館 北 秋
中1	僕らの水道	東成瀬中学校	備 前 未 玲	湯 沢 雄 勝
	雨上がりの朝	能代第二中学校	中 嶋 恒 仁	能 代 山 本
	怒りの形	八峰中学校	白 鳥 光	能 代 山 本
	物の集まる場所	五城目第一中学校	館 岡 ひなた	潟 上 南 秋
中2	夢の道	能代東中学校	堀 井 彩 世	能 代 山 本
	庭	八幡平中学校	佐々木 結 野	鹿 角
	たくさんの知識と物語	五城目第一中学校	武 田 桃 香	潟 上 南 秋
	螺旋状の混沌	大内中学校	小 川 陽 太	本 荘 由 利
中3	祭の賑わい・Ⅲ	神代中学校	H e a r t 学 年	大 曲 仙 北
	本から景色へ	八幡平中学校	坂 本 胡 桃	鹿 角
	混沌	東雲中学校	中 嶋 睦	能 代 山 本
	自画像－私が思う私	秋田東中学校	金 葉 月	秋 田



# 平面の部・立体の部 / 話題になった作品

## 幼稚園・保育園



いもほり  
聖園幼稚園 石黒 渚



一寸法師になりたいな  
上宮第二幼稚園 小野明莉

## 小学校作品



ダイヤやまあらしのなかよしおや子  
尾崎小学校 す田りく



たのしいな  
綴子小学校 おの はると

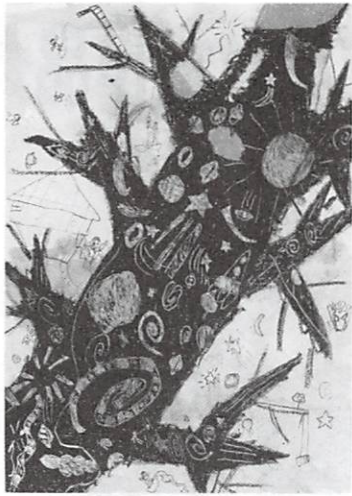


きょうりゅうと森のたんけん しゅっぱーだー!!  
船川第一小学校 みうら けんしろう

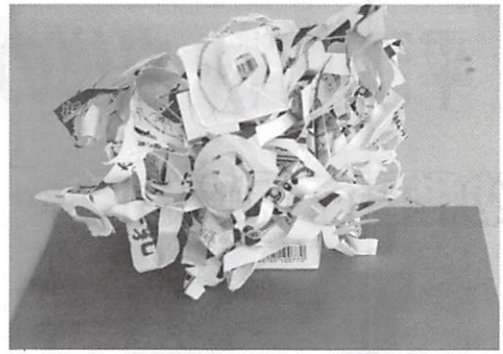


もくずしょいとおよいだよ  
須川小学校 小嶋陸斗





うちゅうの木  
秋大附属小学校 土岐凌生



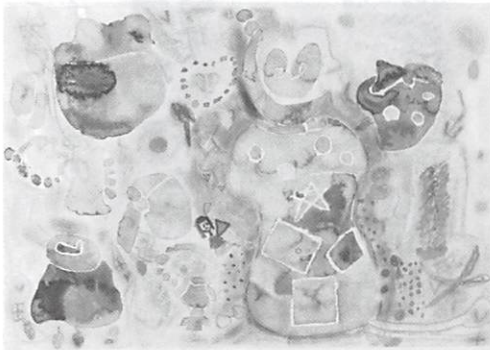
くるりんくるくるの家  
内小友小学校 おおとも しゅう



海の中はとっても楽しいな  
新山小学校 いたう こうう



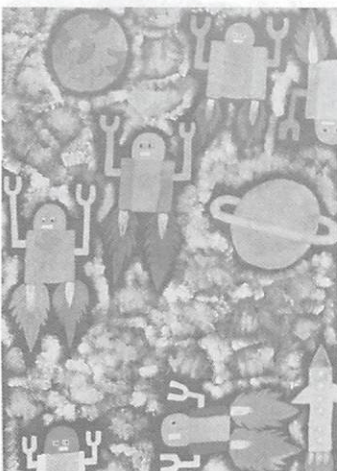
大きな大きなひまわり  
皆瀬小学校 中山 なつき



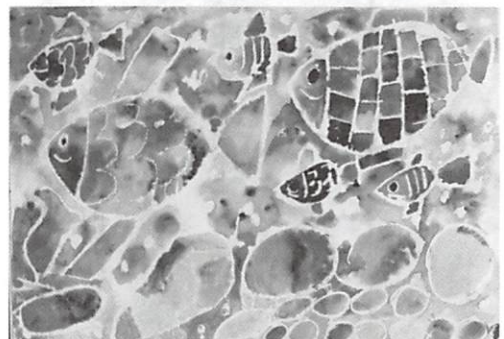
しあわせの園  
湯沢西小学校 東海林 晏 夏



くらげとぼっけん  
鷹巣小学校 藤嶋 愛花



不思議な世界  
米内沢小学校 鈴木 蒼大



にじ色の魚のさんぽ  
石沢小学校 佐藤 隼琉





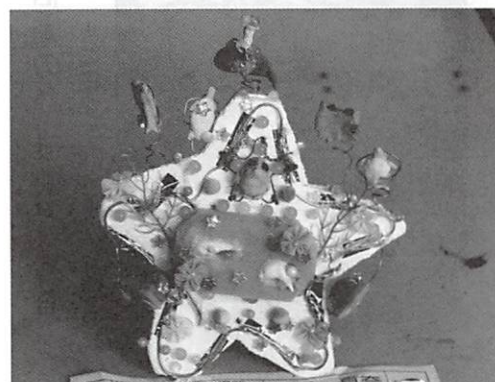
公園で星空と遊んでいる花  
大住小学校 鈴木 達也



ぼくらでかくれた秋の空  
南小学校 虻川 祐次朗



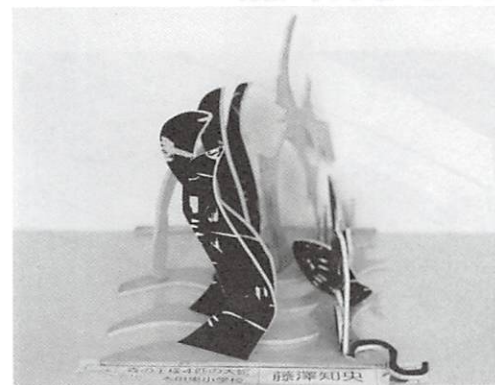
ゆかいな木  
大内小学校 伊藤 羽琉



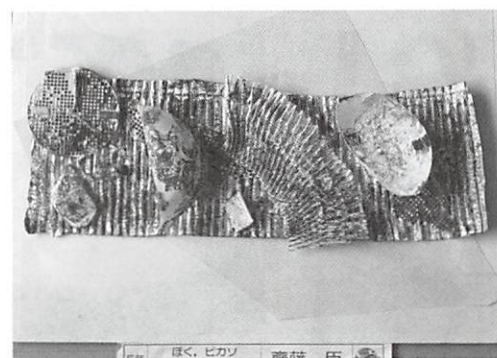
お気に入りの場所  
生保内小学校 住吉 真奈



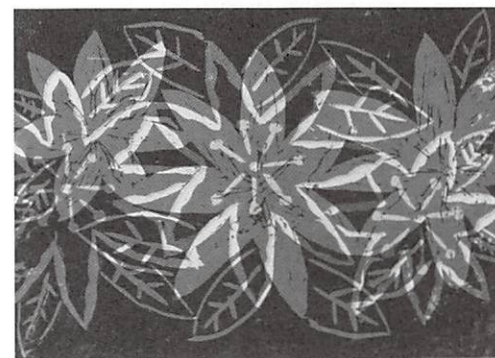
漂流船  
中通小学校 植木 香太郎



森の王様4匹の大蛇  
太田東小学校 藤澤 知央



ぼくピカソ  
植田小学校 齊藤 臣



クレマチス  
湯沢東小学校 高橋 彩夏





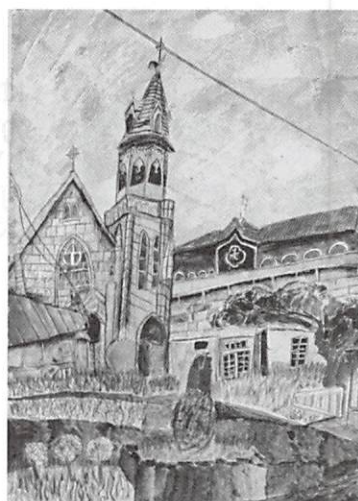
休み時間にのぞいた玄関  
牛島小学校 佐藤 こなみ



白の世界～みんなの挑戦～  
西明寺小学校 佐藤 紋音



大迫力のハリストス教会  
前田小学校 土佐 みのり



カトリック教会  
鷹巣南小学校 佐々木 智矢

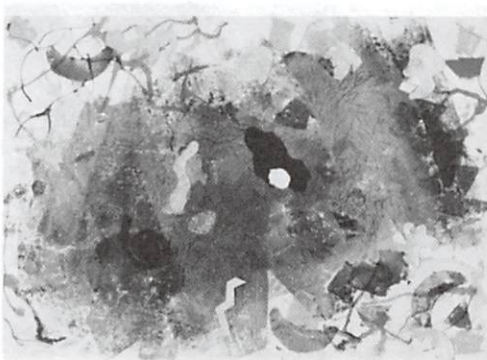
## 中学校作品



大 僕らの水道  
東成瀬中学校 備前 未玲



雨上がりの朝  
能代第二中学校 中嶋 恒仁



怒りの形  
八峰中学校 白鳥 光

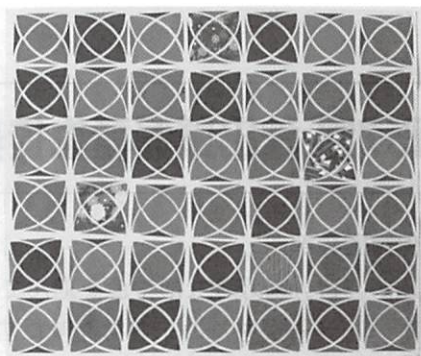


物の集まる場所  
五城目第一中学校 舘岡 ひなた





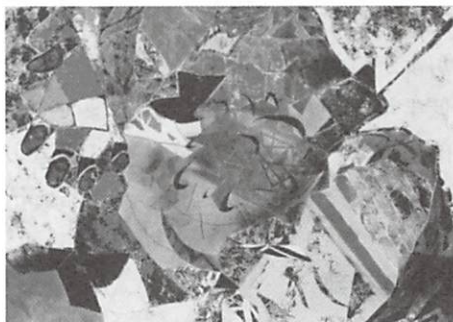
夢の道  
能代東中学校 堀井彩世



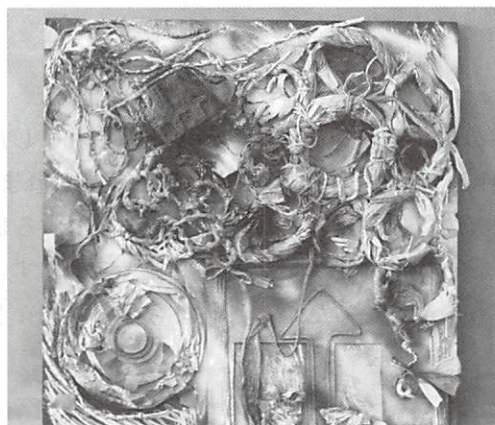
庭  
八幡平中学校 佐々木結野



たくさんの知識と物語  
五城目第一中学校 武田桃香



螺旋状の混沌  
大内中学校 小川陽太



祭の賑わい・Ⅲ  
神代中学校 Heart学年



本から景色へ  
八幡平中学校 坂本胡桃



混沌  
東雲中学校 中嶋睦



自画像—私が思う私  
秋田東中学校 金葉月

## 第57回 秋田県児童生徒美術展 総評「平面の部・立体の部」

### 幼稚園・保育園の部

子ども達が、自分の好きな形や色を進んで選んで、楽しんで描いている姿が多く見られました。また、絵本のイメージをその子どもなりに広げて描いている絵もあり、子供の感性の素晴らしさが感じられました。子どもの自然な表現をもっと生かすと、よりイメージが広がるのではないかと思います。のびのびとおおらかな線で、力強く描いてほしいと感じました。

### 小学校低学年の部

魅力的な作品が多く、楽しい図画工昨の時間であったように感じられました。色彩がきれいで、見ていて気持ちがよかったです。材料をたくさん集めて、試行錯誤の中で表現を模索している様子も見とれました。また、低学年ながらも、画面の隅々まで気を配り、背景の処理にスタンプやグラデーションなどの技法を積極的に取り入れられており、色の重なりが絵に深まりを与えていました。描画材に合わせて、マーメイド紙や色画用紙を効果的に選択し、作品にインパクトやまとまりを与えていました。

### 小学校中学年の部

全体的に色合いのバランスが良い作品が多かったです。自分の表したいことを表すためにいろいろな技法を駆使していました。特に技法から発想をふくらませている作品が目を引きました。また、3年生と4年生の発達段階の違いがよく見て取れました。3年生は表現活動を楽しみながらのびのびと表現していました。4年生は自分の表現テーマを深く追求しながら、表現している様子が見られました。一つ気になったことは、必要以上に描き込んでしまったために表現したいことが見えづらくなり、描き手の思いが伝わりづらくなっている印象の作品があったことです。

### 小学校高学年の部

6年生の作品では、観察力に加えて「こう表したい。」と自分で考えた作品づくりが多く見られました。5年生の作品では、逆にテーマ性が少し弱く、先に技法ありきで作品づくりが始まっている感じが見られました。やはり、高学年では、主題、テーマ性ということを大切にしながら、自分の表したいものを表現するほうがよいでしょう。立体作品には優れたものが多く、材料のもつ形をうまく生かした表現ができています。板材などの加工しやすく、身近に手に入りやすい材料を使用したものが多かったが、自然材も含めた様々な材料にも挑戦してみてほしいと思います。

### 中学校の部

表現のための主題を、時間をかけて丁寧にじっくりと練り上げている作品が多く好感がもてます。自分の思いの在りどころを掘り下げるとともに、描画材などの特質を効果的に活かしながら、バランスのよい構成ができており見ごたえがあります。今後の課題とすれば、与えられた題材ではあるが今まで学習してきた技法表現などを、すべて活用した表現にチャレンジしてみてほしいと思います。この素材、この題材ならば、この方法で、と表現を限定する必要はありません。新たな取組をしてみて、初めてテーマに必要な手だてが見えてくることもあります。与えられた題材を跳び越える勇気に期待します。



---

# 研究の記録

---

# 第41回秋田県造形教育研究大会 平成28年度南ブロック(横手)大会

## 「生きる輝き つくりだす喜び」

～思いを広げ、深めるための造形活動における言語活動のあり方～

主 催 秋田県造形教育研究会 秋田県教育研究会造形部会 横手市造形教育研究会

平成28年11月4日（金）、横手市（横手市立朝倉小学校・横手市立横手北中学校）を会場に第41回秋田県造形教育研究大会が開催されました。

前大会からブロック単位による大会運営となり、大曲・仙北、湯沢・雄勝の会員方々また、県研究部の皆様からのご協力をいただき、盛會に大会を終えることができました。大会参加者はご来賓及び指導助言者の先生方を含め90余名を数えました。

以下に今大会の様子を紹介いたします。なお、誌面の都合上、皆様からいただいたご意見すべてを載せることはできませんでした。いただいた提言を真摯に受け止め今後の研究に活かしてまいりたいと思います。

大会運営にご協力いただきました皆様はもとより、ご参加いただきました各地区の会員の皆様には深く感謝申し上げます。

横手市造形教育研究会会員一同

## ■研究概要

### 1 はじめに

テレビやインターネット、携帯電話に囲まれたメディア社会ともいえる現代。人々は情報端末を自在に操り、必要な情報はすぐに集めることができる。それは子どもたちにとっても同様で、メディアからの情報を学習活動に活用することは当たり前となっており、その知識や情報は驚くほどに広さと速さを増して入手可能となっている。そして休日には、顔の見えない相手とオンラインゲームを楽しみ、現実では体験し得ない仮想世界に浸っている。

このように子どもたちの世界や可能性が広がっている一方で、その情報を検証しないまま活用してしまうことで現実と虚構が曖昧になり、今表わそうとしている事は自分の考えなのか、どこかで得た他者の考えなのか否かの境目が分からなくなってしまうことが懸念される。

そんな現代社会だからこそ「造形」の果たす役割は大きいのではなかろうか。造形活動は子どもたちが「自分自身」を実感できる大切な機会である。自分の手で生み出すという行為、借り物ではない自分の内面から生じる思いを表現するという行為に、今こそしっかりと取り組ませる必要があるのではないだろうか。

生きることと創造活動はつながっている。つくりだす活動に喜びを感じるということは、ひいては生きることそのものへの喜びであり、夢中になって造形活動に没頭する子どもたちの姿は溢れんばかりの生命の輝きを発している。造形活動は対象と向き合い、自分の思いを形と色で表わすものであるが、他者と触れ合うことで、その思いはいつそう広がり、深まっていくものであると考える。

造形活動を通し、自他の関わりの中で思いを発信することにより、虚構でない現実世界で今輝いて生きている「自分自身」を問い直させたい。

### 2 研究の基本的な考え方

#### (1) 目指す児童生徒像

他との関わりの中で、自分になかった視点や考えに気付くことで、自分の思いや感じ方を豊かにし、表現する児童生徒



## (2) 研究の仮説

言葉を通して、他と関わることにより、児童生徒は自分になかった視点や考えに気づき、自分の思いや感じ方を豊かにして表現することができるのではないか。

誰しも日常生活の中で、自分自身の思いを明確に意識しながら生活しているわけではない。迷ったり、漠然とした思いを抱いていたり、自分自身も自分が本当はどうしたいのかが分からないという状況は、ごく普通にあるのではないか。

創造活動は自分自身と対話しながら、この漠たる思いをいかに色・形・イメージとして表現しようとするのか試行錯誤する過程そのものである。他と関わることで、その漠たる事柄を説明し、伝えようとするにより、言葉を通してその思いや考えが精査されていく。豊かさとは単独の要素だけでは得られず、様々なものが混じり合い、反応を起し、練られてこそ得られるものではないだろうか。この反応を起ささせる導火線こそ「言語活動」であり、それが充実することで思いや感じ方の豊かさはより深いものになっていくのではないだろうか。

表現の学習においては、話し合い活動を効果的に位置付けることによって、違った角度からの発想や構想を促し、表現の幅を広げることができる。また、他者と交流することで自分の考えや思いを再確認し、より深い構想へとつなげることができる。鑑賞の学習においては、対話による鑑賞活動等、言葉を使って他者と意見を交流することによって、多様な見方や考え方に触れ、自己の作品の見方や考え方が広がり、深まってくると考える。

## (3) 研究の重点

上記のような仮説に基づき、横手市造形教育研究会では、「思いを広げ、深めるための言語活動」を表現の学習においては「発想や構想の能力」を高める場に、鑑賞の学習においては「鑑賞の能力」を高める場に意図的に位置付けるなどし、次の項目を共通実践事項として研究に取り組んだ。

- ・感じたことや考えを伝え合う場の工夫をする。
- ・思いを広げ、深めるための、他との関わりをもたせる場の工夫をする。
- ・ふくらんだ思いや、考えの変容を確かめる活動を設定する。

## 3 これまでの言語活動の充実についての取組

前学習指導要領から現学習指導要領に改訂された際、改訂の要点の一つに「言語活動の充実を図ること」があげられていることは周知のことと思う。

これを受け、横手市では平成21年度から7年間「言語活動の充実による学力向上推進事業」として、全小・中学校において、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業改善に取り組んできた。これは全教科等で取り組んできたものであり、図画工作・美術科においてもそのあり方について各校で研究を重ねてきたところである。これまでの各校の研究の成果として、次のようなことがあげられる。

- ・制作を進める中で違った角度からの発想や構想を促し、表現の幅を広げさせるために、話し合い活動（言語活動）が有効であること。
- ・交流の中で自分の考えや思いを再認識することで、より深い構想へとつなげることができること。
- ・鑑賞の学習に対話による鑑賞活動を取り入れることで、作品に対する児童生徒の考えが広がっていくこと。
- ・実物の作品を鑑賞することや、その作者と対話をすることで、児童生徒の考えがより深まっていくこと。

このような研究の成果を踏まえ、平成28年度第41回秋田県造形教育研究大会南ブロック（横手）大会では、「A表現」「B鑑賞」それぞれの授業を通し、更に「造形教育における言語活動のあり方」を追求していきたい。

## ■研究協議より

【研究協議Ⅰ 小学校表現】第2学年図画工作  
「しんぶんしジャングルであそぼう」

授業者：朝倉小学校 千田 圭子 教諭

### 1 授業者から

言語活動を造形遊びに位置づけるのが難しい。活動を止めると意欲も途切れてしまう。時間いっぱい関わらせたいが、学習を深めるために言語活動をどのように取り入れていったらいいか悩んできた。

前時では、新聞紙、固定するためのセロテープ、ガムテープに限定し、素材にたっぷり触れ合う時間をつくるように心がけて取り組んだ。ホールには何も置かず、かくれんぼからスタートした。新聞紙に体を埋めて、「暖かーい」「ふわふわして気持ちいい」という声がたくさん聞かれた。「それをもっともっと何かできないかな」と話したところ、様々な活動が出てきた。男の子は剣や盾を作って遊ぶ子が多く、女の子は裂く、裂いた物を体にかける・浴びるなど素材そのものを楽しむ活動をする子が多かった。

活動の後に子どもの言葉（くるくる、ビリビリ、ふわふわ）を拾って掲示し、次のイメージ作りにつなげていけるように残しておいた。また、くるくる作戦、つなげる作戦という言葉も出てきたので、今日の学習に活かそうとして本時の導入をスタートしたが、思いのほかイメージが出てこなかったと思った。

ロープなど場の設定を工夫したつもりだったが、子どもたちの発想を広げたり深めたりすることにつながりにくかったと感じた。前時で出なかった、つり下げるとか、隠すとか、巻き付けるなどが出てくると予想し、カードを用意していたが、子どもから出なかったもので、あえて出さなかった。

「パワーアップ」という言葉は、普段の学習でもよく使っていて、子どもたちは「より楽しく」とか「今よりいいものを作ろう」「考えを出し合っているものをつくろう」ということだと分かっていたと思う。自分がつくっていたものをパワーアップするということは、もっと長くしよう、きれいな山にしよう、雪を降らせる仕掛けをつくろうというようになっていた。ボール作りをしたグループは、バレーボールから、的当ての板の上を転がす活動へと変化させていた。新聞紙を裂いて、トンネルにつり下げている子どももいた。これが教師のイメージに近かった。一人一人のイメージは違うが、それぞれがパワーアップしようと頑張っているのを感じた。言語活動をうま

く拾えなかったことを反省している。特に、意欲を損なわずに認め合うのが大事だが難しい。説明する人と聞く人に分けて行ったが、「まとめ」の活動は適切だったか教えて欲しい。上手いかわいところは、子ども同士で教え合えるといいと考えていた。新聞紙を上手く裂けない子どもたちには、上手いっている友達に聞くようアドバイスをした。子ども同士で解決できるように普段から心がけ、学び合いを大切にしている。



### 2 協議（参会者からの意見）

- ・ 一人一人が生き生きして楽しそうだった。ふりかえりの時間に、「たんけん」とまわって歩くことで、あきずに取り組んだと思う。
- ・ 見合う場で、行く前に「〇〇屋」と紹介してからまわるといいのではないかと。「前とどこがちがうのか。」を「聞く」と「言葉」と「表現」がつながるのではないかと。題名を見て、行きたいところを考えることができると思う。
- ・ 45分で紹介する活動まで入れるのは、難しかったのではないかと。始めから場を設定すると、空間を意識して広がりのある活動ができたのではないかと。自分が実践したときは、危険なので高いところに勝手にのぼらないという約束でやらせた。
- ・ 全身で関わることをねらっていても、始めは身の回りの小さい物をつくる活動をしていたので、その後に「全体で」と言われてとまどっていたのではないかと。テープがあることで、とめることに目がいったのではないかと。
- ・ 大曲仙北で1年生の実践をしたときは、新聞紙大の薄紙（洋服を包む紙）を使った。体育館にテントの骨組みを置いた。紙をかけたり、雪のドームをイメージしたり、洗濯物のようにつるしたりしていた。  
「つくる」を連発しないように、「何をしているの？」と聞くようにしている。「〇〇してみたい」と「〇〇をつくりたい」は違うと思う。言葉を吟味して使うようにしたい。
- ・ 道具があったので、興味をもたせるような言



葉かけがあったらよかったのではないかと思った。

- ・ 新聞紙のよさは、惜しみなく使えるところだろう。何をしてもいいというよさがあると思う。1・2年生で一緒にやったところ、活動が広がった。折り紙のように折ったり、着せたり、巻き付けたり予想外のことをする子どももいた。
- ・ 自然に交流ができていた。パワーアップは、いいものをつくり出すのか、様子を強化するのかがあいまいだったのではないか。パワーアップの手段として、表現の場、人を交換するなど変化を与えてもいいのではないか。
- ・ 流れ星、畑、玉をつくりピタゴラススイッチだと新聞紙を転がしていた子どもがいた。最後にみんなで遊んだのがよかった。

### 3 指導助言（鈴木 正樹 指導主事）

子どもが思いのままに表現活動に取り組む姿があった。主体的・能動的に活動に取り組んでいたかがまず第一に大切なことである。楽しく活動できることが大事で、今日のように、豊かな表情や歓声、体全体で材料と触れ合う姿が見られとてもよかった。思いのままに楽しくつくすることで、資質や能力が育まれることを理解して見ていきたい。

課題として、始めに教師がパワーアップしようと提案したときに、子どもたちがどのようにイメージしていたのかのおさえが必要だったのではないか。パワーアップという言葉を出す前に、「どんなことをしたいですか」と聞いたので、パワーアップの意味を押さえた上で次の活動について聞けば、新聞紙と遊ぶためにもっとどんなことをしたいかが出てきたのではないかと思った。

新聞紙との出会いから、活動を思いついてダイナミックな活動へと展開していった。今日は主な材料として新聞紙を使っていたが、それをつなぐものとしてセロテープとガムテープを準備していた。ガムテープが活動の幅を広げることにもなっていたが、逆に狭めてしまっていたグループがあった。子どもたちにどういう時に使うのかを説明し、安易に使わないようなおさえが必要だったと思う。

場所については、体全体を使って十分に材料と向き合うことが大切なので、今日のような広いホールや体育館などで行うことは有効である。今日の活動で効果的だったのは、新聞紙を切って滝のようにしていたグループだった。新聞紙のよさを活かしているし、一緒に活動していることで共同の学びが生まれてきたと思う。材料をいろいろ与えたから発想が膨らむというわけではない。逆に限定することによっていろいろな工夫がされるということもある。その学年のねらいや育てたい資質をおさえて材料や場の設定を考えていって

ほしい。

造形遊びでは、つくり、つくりかえ、つくるという連続した過程が特に求められる活動である。作品づくりではない。発想・構想と創造的な技能が繰り返されるといふ学習過程をつくっていく役割を担っていることを忘れてほしい。

図画工作・美術に求められる特有の学習過程として学びのサイクルということがある。授業の中で子どもたちは、発想・構想、創造的な技能、鑑賞の能力の3つの能力を常に行き来して活動しているという考えである。そこを教師が理解し、見取って声掛けをすることが大切になってくる。今日の授業でも、つくりながら見て、見ながら思いついて、そしてつくったり思いついたりということを繰り返す幅のある活動が行われていたのがよかった。

子どもたちは材料と関わりながら自分の思考を形にしようとしていた。ただ、そのつくり出しているものの価値を自分自身で分かっていないことがある。教師がそばに行き、「何をしているの」「すごいね」「よく思いついたね」という認める言葉掛けをすることが大切になってくる。千田先生は自然にそれをされているのが素晴らしいかった。

言語活動に関して、つくりながら、かかわり合いながら、言葉を通じて学び合っている場面が見られたので、よかったと思う。

造形遊びとしてのよさが随所に見られたいい授業だった。

#### 【研究協議Ⅰ 小学校鑑賞】第3学年図画工作

「もしもアーティスト」

授業者：十文字第一小学校 藤井志津子 教諭

#### 1 授業者から

3年生で名画の鑑賞に取り組むのは初めてだった。それまでは、児童作品の相互鑑賞は行っていたが、鑑賞のみの題材を扱うことはなかった。7月の事前研ではカンディンスキーの「コンポジション」を取り上げた。グループ討議を取り入れたが、グループでの話し合いと全体での話し合いの差がなく、参観者からグループでの話し合いが不要なのはとの指摘も受けた。今日の授業では授業形態としてグループでの話し合いを取り入れなかったが、そのことによる授業の構成はどうだったかご意見を伺いたい。今日の授業は反省点は多いが、子どもから主題にせまる発言が出た。

子どもたちに初めて鑑賞させたのがワイエスだった。そのときに6つの視点「形」、「色」、「イメージ」、「物語」、「遠近・奥行き」、



「質感」が子どもたちから出たので、今回もワイエスをとりあげることにした。

今回は「クリスティーナの世界」と「松ぼっくり男爵」の2点を鑑賞させた。作品を2点並べたのは、人物の描かれている作品と人物が描かれていないが、人の気配から物語を感じられる作品の2点があることで、子どもが選択することができると考えたからだ。



## 2 協議（質疑応答・参会者からの意見）

Q：先生が、子どもに見せる作品を選ぶ場合のポイントを教えてください。

A：まずは何より教師自身自分が好きな作品であること。自分自身が作品に対する思いがある作品を選ぶ。以前、ダリを取り上げたときは、反応が悪く、話し合いに広がりを感じられなかった。キリコやダリは、物語性がありそうで、よさそうに思ったが広がらなかった。カンディンスキーのように幾何学的な絵は、子どもたちは話しやすく話し合いも深まった。

Q：最後に「本当の題名は…」と言う授業もある。今日の授業で最後に本当の題名を知らせなかった理由を教えてください。

A：本当の題名については、子どもたちが再びこの絵に出会ったときに知ることができると考えている。そのとき、「僕たちは、こういう風に見たけど、こんな風な背景やドラマがあったのか。」となるだろう。本当の題名を言うってしまうと、自分たちが広げた世界が縮まってしまうと考えた。

Q：子どもたちが絵の細部についてよく見ていた。また、語彙が豊富で想像力豊かだった。6つの視点もよく分かっていた。この6つの視点を子どもたちがどう表現に生かしているのか。

A：表現に生かしていくのは、これから。子どもたちは、会話の中に少しずつ色や光について取り入れようとしているように思う。これからもっと声かけをして意識付けしていきたいと考えている。

・ 子どもたちが自分の意見を変容させていく様子が感じられた。「はじめは〇〇と思っていたけど、△△を聞いて、□□に変わりました。」というような発言が多く見られ、一斉での話し合いでよかったと思う。

・ 子どもたちが全体での場で意見を交わして「そういえば…」と、どんどん話していてすごいなと思った。一斉でやることで子どもたちの世界が広がっていった。以前小学校6年生の鑑賞の授業で最後に作品のタイトルを伝えたところ、「あー外れた」で、終わってしまったので、タイトルを伝えなくて授業をしたことはよかったと思う。

・ 鑑賞作品は一枚でもよかったかなと思った。

子どもは2枚出されると、2枚を関連づけて考えて、広がることもあるけれど、引きずられる面もあるのかなと思った。

## 3 指導助言（菊地 邦彦 指導主事）

今日の授業でよかった点を3点ほどあげたい。

言語活動をよく取り入れている授業だった。本時において言語活動を取り入れることで、鑑賞の授業のねらいによく迫っていた。よくある誤りだが、言語活動を取り入れようとして、制作を中断して作品を見合い、話し合う授業では、創造的スキルが育たないこともある。

能動的な鑑賞活動だった。対話型やアートカードを活用する際もそうだが、自分の価値意識を持って作品を読み解くことが大切だ。自分で、そして学級全体でワイエスの価値を読み解くことができていた。図工美術は答えが一つではないところが良さである。今日は、ストーリーを考え、タイトルを考えていた。発達段階もあるのでこれでもいいと思う。中学生にタイトルを考える授業を実施するとしらけてしまう事が多い。

先生のコーディネートがすばらしかった。先生の出番が少なく必要最低限だった。また、共通事項の視点が生かされた活動だった。先生がしっかりと共通事項を押さえていたからだと思う。そのため、子どもたち自身が作品をとらえる根拠をしっかりとつことができていた。先生のコーディネートでワイエスの主題に迫ることができていた。

アクティブラーニングを生かした授業改善がなされており、提案性の高い授業だった。小学3年生でこんなに深められるとは驚きだ。作品選びが話題になっていたが、先生が好きな作家だからというのは大事なことである。今日の指導は、これまでの積み重ねがあったからこそといえる。主体的かつ対話的な授業だった。小学校の発達段階に応じた深い学びがなされていた。奥行きについて子どもたちから出ていたが、これは5・6年生の



共通事項である。すごいと思った。

図画工作の授業は自己実現の場。みんなでそれを認め合う時間といえる。子ども主体の学びができる図画工作こそが、我々の教育をリードしていくといえる。

#### 【研究協議Ⅰ 中学校表現】第3学年美術

「南中 APPEALS ～いのちのメッセージ～」

授業者：横手南中学校 高橋 聖子 教諭

### 1 授業者から

本時の中間発表会は、質的な深まりを期待して、よりよい完成のための会にしようと考え行った。

導入後の発想・構想の段階では、アイディアスケッチを何枚も描いて、どのようにテーマを表現するか取捨選択する生徒の姿が多数見られた。初期の話し合いでは、特に美術が苦手な生徒にとって、アイディアを発見したり、参考にしたたり、自己の考えを肯定的に受け止めて自信を付けたりする効果があった。話し合いのグループのメンバーを何度も入れ替えることで新たな気づき生まれ、多様な受け止め方ができるようになっていったと思う。

作品を通して、どんな思いや気持ちを伝えたいか、主題を重視させた。自分の考えや思いが薄い生徒は、イメージがあやふやで制作途中で行き詰まるケースも見受けられた。そのような場面では、再度、友達や教師と話し合いを行い「本当に表しなかったのは何なのか」を明確化していった。結果的に主題設定することに一番時間を要した。

様々な試行錯誤を通して、友達や教師からのアドバイスを有効に取捨選択し、自己判断し、自己決定しながら主題に近づくことができたと思う。



### 2 協議（質疑応答・参会者からの意見）

Q：指導計画中の6時限目では、アイディアスケッチを批評し合う場の設定がされているが、生徒同士どのようなアドバイスをし合ったの

かを教えてほしい。また、教師は、その際に、どのような働きかけをしたのか。

A：何からインスピレーションを受けたのかを具体的に説明させたり、今までに既習したことを想起させたりした。様々なアドバイスをもらっても、あくまでも自分の思いを中心にすえて制作し、自身を深めさせるように励ましている。話し合い活動を通して、同じ表現でも感じ方が人によって違うことや方法論も違うことに気付いた生徒が多数であった。他者と考えを練り合うことが、大変貴重なものだと受け止めていたようだ。

Q：「生命の尊重」このようなテーマを掲げたときの生徒の反応は、どのようなものであったのか。また、今回のテーマへの迫り方は、どのように行ったのか。

A：本校では、全校で命の大切さについて学ぶ取り組みを行っている。美術科としても、その一環として取り組んだため、生徒達から違和感を持ったという声を聞くことはなかった。表現する際に他人事ではなく、自分のこととして考えないと、表現する意味も失いかねないことを生徒に伝えた。

・ 言語活動の場の設定についてであるが、少数の生徒の批評では、偏りが生じる可能性があるので、たくさんの生徒からメモや感想文を受け取れるようにすれば、更に学習効果を上げられるのではないかと。

・ 話し合い活動では、重いテーマにもかかわらず、生徒一人一人の中でしっかりと消化された批評がなされていたと思う。話し合い活動を行ったことで、制作も、より活性化されていたと感じた。表現の方向性について迷っていた生徒も、友達から良い点について指摘され、自信をもって制作に取り組めたと思う。テーマに迫ろうとアドバイスを取捨選択し、質的に高まる変容が見られてすばらしかった。

・ アドバイスを受けた生徒が、アドバイスをどのように生かしたのかをアドバイスしてくれた友達に伝えられる場があれば、更に学習が深まるといった。誰でも自由に安心して発表できる雰囲気や仲間の意見を尊重しようとする受容的な学級の雰囲気があった。また、材料や道具など、きめ細かい準備がなされており、制作環境が工夫されていた。

### 3 指導助言（熊谷留美子 指導主事）

制作の中盤であるが、生徒は、自己の具体的な表現と構想したイメージのギャップに苦しんだり、方向性にズレがないか模索し葛藤する。生徒が完成に向けて期待感を高めていくためにこの中間発



表会が必要な時間であった。

中間発表会では、生徒一人一人が鑑賞の能力を応用して3分間の持ち時間をフル活用していた。自分が感じたことや気付いたことの中から一番伝えたいことを自分の言葉としてアドバイスしていた。協働的な学びを可能にする互いを認め合う人間関係ができており、友達との主題について他の生徒も作者の表現意図を共有できていた。また、話し合い活動で得られたアドバイスを制作グループで実践することで、アイデアが拡散し、再共有化が図られていた。

先生が生徒の思いを対話を通して丁寧にくみ取っている。生徒の変容を意識して個の制作で発見したことや良い点を全体に紹介し、共有化できる場を設定していた。

造形活動における言語活動のあり方について、何のために話し合いをするのかを生徒が理解しているかが重要である。横手南中では、全校（全教科）で言語活動のあり方を研究している。様々な取り組みが生徒の中でモデル化・パターン化され定着された結果であるにとらえている。

ビジュアルを主として取り扱う美術科にとって、言語活動は、本当に有意義なのかと疑義を唱える方もおられるかもしれない。今回の授業実践を見ていただければ、表現活動を充実させていくには、どうしても話し合い活動が不可欠であると感じていただけたと思う。言語活動は、協働的な学びとタイアップしており、発想・構想の段階や鑑賞など、フィードバック的に取り組まれることが多い。

最後に「いのち」という大きなテーマについて最後まで粘り強く取り組んだ実践に対して敬意を表したい。

#### 【研究協議Ⅰ 中学校鑑賞】第2学年美術

「絵は語る ～郷土の作家 木村榮治の作品より～」

授業者：横手北中学校 高橋 輝樹 教諭

#### 1 授業者から

今年度の前期にF100号サイズの実物の作品を鑑賞している。今日の授業で実物を鑑賞するのは2回目である。今回取り上げた雄物川町出身の郷土の作家「木村榮治氏の『失意の部屋B』は彼が54歳の時に描いた作品である。教員をしながら制作活動を行っており、仕事に追われる多忙感や不安定な感情、自身のやりきれない気持ちなど、作者の思いが感じられる作品である。前回の授業では、描く側には思いがあることを確認したので、今日の授業では、それぞれが自分の価値意識をもって見方を深められるようにすることが目標であった。そのための、教師の言葉かけ、板書、発表のさせ

方、話し合いの場の形態など、教師の手立てがどうであったかご意見をいただきたい。

「今日のめあて」の設定は、教師が一方的に決めるのではなく、生徒たちの言葉の中から引き出して設定するようにした。また、「思考の可視化」の工夫として、自分の考えをまとめたり根拠を示しやすくするための学習シートを活用した。また、ペアやグループでの交流、生徒の発言の板書、必要に応じた情報の提供（今日の授業では題名）などにより、見方がより深められるようにしてみた。今日の授業の学級は、個性豊かであるが、級友の意見を否定せずに認めあえる、温かい雰囲気学級である。



#### 2 協議（質疑応答・参会者からの意見）

- Q：生徒たちが発言をつないでいたが、つなげていくために工夫していることを教えていただきたい。
- A：友だちの意見につなげて話すことは、全授業で取り組んでいることで、全校で友だちの意見につなげて話すことをすすめている。
- Q：今日の授業の展開では、どの場面から深める部分だったのか。
- A：背景の道の遠近感やテーブルの赤に対する色の感情が出たり、ピエロについての考えを述べている生徒が出てきて、画面の中にストーリーを感じ始めたあたりではないか。その後、みんながより積極的に話し始めてきたように感じた。
- Q：「見方を深める」ところは、ラスト20分位のところで作者の心情に迫って来ていたが、もっと前にやりたかったのでは？
- A：生徒の視点が拡散し、その分生徒のつぶやきが多くなったが、なかなか確信の所にたどりつかず時間がかかってしまった感がある。
- Q：対話による美術鑑賞の中で、情報をどの程度生徒に伝えるか、とても悩むところである。今日の授業では、絵画のタイトルを伝えてい



たが、自分の考えと違っていたという生徒の気持ちはないものなのか。

A：生徒たちの発言の拡散をとめ、ねらいとする方向にもっていきかった。そのためタイトルを伝える選択をした。生徒たちは表現の工夫はよく捉えることができていたので、もう一步踏み込んで作者の思いを考えて欲しかった。

今日の授業で取り扱った絵画がとてもよく、生徒の考えに広がりが見られた。美術館での鑑賞を行ったこともあるが、生徒の考えが広がったり深まったりすることは難しいと感じた。やはり普段生活している学校の教室で行うことでじっくりと作品と向き合うことがよいと考える。

### 3 指導助言（大野 一紀 主任指導主事）

授業参観の視点である、言語活動を通して関わり合いながら広げて（深めて）いく場の設定について。事前の準備がよかった。地元の作家の実物の作品は、生徒にとってとても価値あるもので、成果としても期待できるものである。また、生徒の座席も話しやすい工夫がなされていた。生徒を笑顔にして、心を温めてから授業に入ることはとても大切で、特に鑑賞の話し合う時には、効果的である。

主体的協働的な学びの姿について、主体的でなければ、課題意識はもてない。見たい、聞きたいと思わせる場の設定を工夫し、既習事項を確認しながら、主体性を引き出していた。協働的であるためには、そうなることの根拠性を引き出す必要がある。

思いを広げ、主体的な学びにつながるための教師の関わりについて、「広がってきていいね」などといった教師の言葉かけで、生徒の思いを吸い上げていた。生徒がテーブルについて発言した所では、もっと教師が関わってもよかった。ここで主題に迫っていてもよかったように思う。

作者の思いを述べる場面では、生徒たちは前向きな捉え方をしていたが、造形的な要素から感じることができるともっとよかった。

美術の授業だけでは生徒は育っていかない。全ての教科や学校行事、学校生活の学びから得るものである。美術科としては、造形的な思考で積極的に発信できる生徒を育てていきたい。

生徒たちはとても育っている。平成30年には全国大会が予定されている。自信をもって授業を展開して行って欲しい。

## 【研究協議Ⅱ 表現】

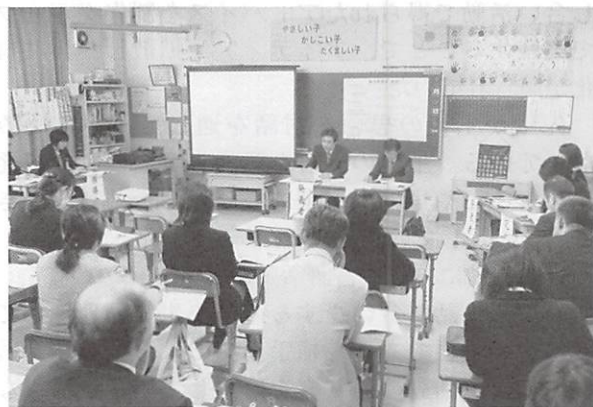
実践発表者

・稲庭小学校 鈴木 陽 教諭

・平和中学校 武田 淳子 教諭

「初めて出会う表現技法から、イメージをふくらませて」

湯沢市立稲庭小学校 鈴木 陽 教諭



本校は全校46名、2つの複式学級という小規模校である。今回のテーマである「つくりだす喜び」について改めて考えてみよう、発表の内容を「つくりだす喜びを味わわせるための指導の工夫」とした。

#### (1) 「春を感じて」

水を含ませたスポンジに絵の具をつけ、にじみやぼかしの効果を生かして表現するというものである。導入で教師が描いた作品を見せたり、子どもたちの前でやって見せたりすると、「どうやって描いたのか?」「やってみたい」と興味を示した。試しながら進めていくうちに子どもたちはいろいろな技法を見つけていくことから、試しの時間の大切さを感じた。イメージを膨らませて活動に生かすことが苦手な生徒もいたが、この活動では進んで取り組んでいて嬉しかった。

#### (2) 「強くてやさしい組み木パズル」

「かきつぎ」という木の板に切れ目を入れてつなぐ方法と、「だぼ」という木の棒をさして組み合わせる方法を新しい技法として提示した。導入では教師が作ったものを分解させたり、ゆるめにつくってガタガタするものと比較させたりして考えさせながら進めると、子どもたちは切れ目を入れた幅が木の板と同じでないとしっかりと組み合わないと気づいた。その後、余っている木を使って試しの活動をし、本番では偶然にできたような作品ではなく、「安定した形」「縦横に広がる形」「役に立つもの」など、ねらいのある作品を作りたいという声上がり、目的のある制作活動となった。

意見の交流、学び合については、友達の商品で

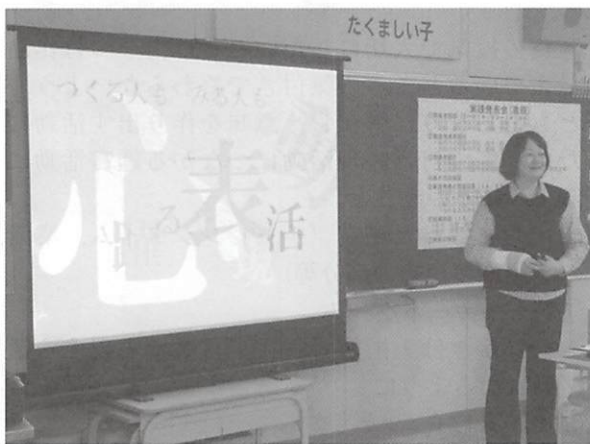


表現のよいものができる、その生徒の周りに集まるといふ場面が多く見られた。おもしろい表現は、「いただき」と言って自分の表現に取り入れることもあった。友達の試作品を、自分の作品に使うこともあった。学習カードについては、「友達の作品のよさ」という項目を設けているが、子どもたちは自然に気づいたら書く習慣ができており、お互いに書き合っている。共同する学びについては、工作では道具を1人で使えないときなどに「ヘルプ」と言って一声かけると近くの子どもが手伝う様子が見られ、協力し合う、友達のよさに気付くという学びが深められた。小規模校、複式学級の強みもあり、6年生が5年生に糸鋸の使い方を教えるなど、学び合いがここで見られた。

この実践は、創作意欲を刺激して作品のイメージを広げる手だてになったと感じる。新たな表現方法をどのようにして広げていくかということだが、ある程度は道筋を示す場合と示さずに子どもたちに任せる場合があることに気付いた。意見の交流や学び合いでは、表現を参考にしたりよさを交流したりすることが新たな表現を生むことにつながったと感じた。協力して制作したことで、お互いを認め合ったり、技能が習得されたりと自分とは違う表現に気付いたりするなど、表現の喜びにつながっていたと感じる。留意点として、何をどう生かして使うかということは題材によって見極めていくことが大事だと感じた。また、友達の表現方法を「いただく」ということについては、安易にまねることがないように、お互いの作品を見合うときには、その目的、タイミングを吟味する必要がある。

### 「つくる人もみる人も 心躍る表現活動」

平和中学校 武田 淳子 教諭



#### (1) 「校舎キャンパスプロジェクト」

意義として、全校生徒が1つの大きな作品を制作するという経験、毎年3年生が中心となって全

校で巨大絵画を制作する特別感、地域の人々へのアピールなどが挙げられる。デザインは3年生で、主題は生徒会テーマに合ったもの、みんなが楽しんで元気が出るようなもの、地域の人々にも喜んでもらえるようなものをデザインの条件としている。デザインは、3年生全員のアイデアのいいところをどりをしてひとつにまとめており、自分のアイデアが取り入れられたうれしさを感じ、意欲の向上につながる。

#### (2) 「光と影で描くぼくらの青春」

自分たちが楽しくつくった作品で、見る人たちも楽しませることが根底にあり、自分の思いのみでつくる作品とは視点を変えて取り組んでみた。共同制作のため、話し合ったり折り合いをつけたりするが、それが大切だと感じている。意義をもって作品を校内の適切な場所を選び、小道具などを考えたり、校内の雰囲気に合わせて何度も描き直したりするなど、主体的な活動ができた。

#### (3) 「自分キャンパス」

シュレッダーダストに木工用ボンドと水を混ぜて粘土状にし、ビニールシートをかぶせた自分の写真の上に乗せて1cm位の厚さで型取った。これを1週間ほど乾燥させてキャンパスにして、「15歳の自分」という題材名で自画像として取り組んでいる。完成後は合評会等も実施し、いろいろな人に感想を書き込んでもらうようにしている。

学び合いはグループ活動のよさであり、取り組んでよかったと感じる。見る人を意識すると表現の仕方や想像力、他の人を思う気持ちなど、わかってくるのがたくさんある。自分の努力を人がどのように感じてくれるのかを意識できれば、美術の表現や鑑賞の楽しみ方もさらに広がっていくのではないかと感じる。美術が生活の中で大きな役割をもっていることを意識させることがこれからの課題と感じている。

#### 指導助言

##### ・鈴木 正樹 指導主事（鈴木教諭の実践に対し）

指導要領解説には「つくりだす喜びを味わうとは、感性を働かせながら作品などをつくったり見たりすることそのものが喜びであり楽しい」と書かれている。ここに「感性を働かせながら」とあることから、児童の感覚や感じ方を重視していることが明確に示されている。つまり、作品をつくること、見ることが児童にとって喜びそのものだが、児童自らの感じ方や感覚、自己決断していく過程が重視されていなければ、本当の意味でのつくりだす喜びにつながってはいかないということである。

実践紹介(1)についてのポイントは2つある。1つは新しい表現に出会わせること、2つ目は試



しの時間をたっぷりとることである。この実践では試行錯誤の時間が大切にされており、子どもが自分で判断して自己決定することを補償している。やるべきことがわかって、やりたいことが見つけられなければ表現につながらない。子ども自身が思いつくきっかけを教師が手立てとして設定することが大切である。新しいことを試す中で、子どもがやりたいことを見つけることはよくあることで、効果的な方法の1つだ。この実践では、新しい表現と出会わせて、試しの活動をしっかりさせている。新しい表現と出会って試行錯誤する時間は、それまでは働いていなかった子どもたちの感性が作品を思いつく気づきになると感じた。同時に、それは創造的な技能の習得につながっている。

実践紹介(2)は、鑑賞を通して新しい表現につなげるという内容である。つまり、つくること、見ること、考えること、そして、また、つくることの連続性を通して、図画工作でねらっている発想・構想の能力、技能、鑑賞の能力が、相互に関連づけられている学習になっている。図画工作の場合は、表現活動する際に、自然発生的に、そういった学習過程になるが、そこを鈴木先生はきちんと声かけをしたり、鑑賞の場を設定したり、敢えて共同で作業させたりすることで、そのような学習を創り出している。この3つの力が関連して働いているところで活動しているうちに、子どもたちの感じ方が広がったり深まったりしており、それが作りだすよるこびにつながっていると感じた。新しい表現と出会って表現することは、子どもの発見の切り口となっている。そのことは新学習指導要領で特に大切にされているが、指導の場面でうまく提示され、それがよくわかる実践であった。

・熊谷留美子 指導主事(武田教諭の実践に対し)

「校舎キャンパスプロジェクト」は、平和中学校へ向かっていくと「ドーン」と目に入る。今年度の3年生の想いや意気込みが感じられる力強いデザインで、見る人にパワーを与える。生徒はその下を通して登校するため、美術の力を日々感じられる作品となっており、それは地域の人々にも伝わっている。

2つめの実践はグループでの共同活動である。様々な課題が持ち上がるが、グループでアイデアを出し合いながら解決しながらつくる。生徒1人1人が構想し、グループのコンセプトを表し、自分たちがねらった場所に展示し、作品となる。作者の思いだけでつくっているのではなく、全校生徒や学校を訪れる人の気持ちを意識した表現となっている。また、導入がとてもよい。さりげなく玄関に少女のシルエットが貼られていて、生徒

の興味関心、表現意欲が高められる。また、校舎と一体化したシルエットは、他学年の生徒、教師、来客の興味につながり、生活を美しく豊かにする美術を実感する機会となったと感じる。次期の学習指導要領の準備が進められているが、生活を美しく豊かにする造形や美術の力、実感的な理解を深め、生活と社会と豊かに関わる態度の育成がさらに求められる。色の三属性の理解や技法の習得なども大事だが、それが学びの最終目標ではない。この視点を強くもって、さらに題材構想、授業の改善を図る必要がある。平成30年度全国造形教育研究秋田大会が行われる。これまでの実践を学習指導要領が求めるものと照らし合わせて改善を図り、積み重ねていってほしい。

### 【研究協議Ⅱ 鑑賞】

実践発表者

- ・内小友小学校 佐藤 智美 教諭
- ・湯沢南中学校 仙道真理子 教諭

「つくってみよう・みてみよう

～中学年における鑑賞の在り方について～

小友小学校 佐藤 智美 教諭



鑑賞の授業で大切にしたいことは、一つは作品の見えるところの気づきで終わらないよう、子どもたちなりに解釈し、意味を作り出す活動にしたい。二つ目は表現活動につながる鑑賞活動になるようにということ。

(1) ちょこっと鑑賞(チャレンジタイム、業間、授業の初めの部分等)

①アートカードゲーム

絵はがきは美術館で購入。言葉で表現する活動になるように。

②マイフレーム

厚紙で作ったフレームで風景を切り取る活動「描いてみたい!」という意欲に。

③この色どんな感じ

学習指導要領に例として掲載されていたもの。



話し合ったことを教室に掲示。

(2)「ピカソにチャレンジ」(ピカソの人物画をもとに)

①鑑賞：ピカソのよさや面白さ

②表現：自分の2つの表情を一つの顔に

③鑑賞：友達のよさ

成果として、鑑賞活動を積んだことで作品を観る視点が広がった。ピカソの絵を鑑賞することからスタートしたことで表現活動への意欲と見通しを持つことができた。

課題として、感じたことを言葉にし、友だちと交流し合うことがとても重要である。言語活動を充実させること。絵画だけでなく立体作品も取り入れていくこと。

### 「アートアイズ ～身近な美を発見しよう～」

湯沢南中学校 仙道 真理子 教諭

美しさを見つける手段としてデジタルカメラを使用。失敗を恐れることなく対象を表現できる映像メディアのよさを生かし鑑賞活動へとつなげた。

(1) 学校祭のテーマ「感謝」と「笑顔」を伝えるために

思いを伝える被写体も多岐にわたり、デジタルカメラでの表現の可能性を感じさせることができた。

(2)「南中『美』物語」

校外外を探索し新たな発見。自分なりの美を見つけることができていた。

成果として、友だちの作品や発表から気付くことも多い。主体的に美しいものを見つけていこうとする態度や関心の高まりがあった。他者を受け入れ、新しい自分へそして、鑑賞の楽しさを味わった。課題として、画像データの管理。鑑賞で得た力を表現活動に生かせる題材開発があげられる。

### 指導助言

・大野 一紀 主任指導主事

小学校の実践「アートゲーム」はゲーム的な要素が子どもたちの興味・関心・意欲を高めるものとなっている。絵をみて「風が吹いている」「静か」等音を感じていることが素晴らしい。それをどこから感じているか。視点を意識化させ、はっきりさせていくとさらに素晴らしい実践になる。

中学校の実践「アートアイズ」は生徒たちのグループ活動がよい。カメラの台数が少ないのであればグループで協力しながら工夫しながら行うとよい。ねらいに迫れるように今回は「構図」「アングル」等と絞ったほうがよい。

写真をつなげて物語を作る活動が、「美」を意識した物語になっているか。ただつなげてお話を

作ろうとしていないか。そこをもう一工夫し、より深い学びになるようにしたい。

・菊地 邦彦 指導主事

佐藤先生は鑑賞教材を計画的に効果的に行っている。ピカソのよさや面白さを味わったことが表現活動へとつながった、表現と鑑賞の関連を図ったよい活動である。共通事項の視点を生かして確かな効果を生んでいる。今後もアンテナを高くして取り組んでほしい。

仙道先生は好きだけど描けないという生徒に写真での描写を試みている。絵を描くことだけが美術の時間ではない。写真を基にし、発想や構想の資質・能力を育成していく題材といえる。この経験が今後、創造的な技能を発揮する場面で生かされるだろう。

今後の授業づくり、学習のプロセスに関して、発想・構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力、それぞれが主体的な学習の中で関連させながら活動させることが大切である。造形的な資質能力を育成する視点で題材や授業を考えることができる。

次期学習指導要領がまとめられている文部科学省のホームページからダウンロードして授業の参考にしてほしい。





## 第69回全国東北造形教育研究大会宮城大会

### 大会主題「よさや美しさ」

～つながりの中に生まれるものに向かって～

#### 1 大会運営について、全体の印象について

11月10日（木）午前、宮城県仙台市民会館にて東北造連理事会、校種別会議、全造連全国代議員会議が行われ、各会において、規約の確認や今大会の運営についての話し合いがもたれ、つづいて情報交換が行われた。また、全国代議員会においては、大会宣言の承認や、次期開催県である長野県からのプレゼンが行われた。今大会のテーマ説明については、震災以降にあらためて見直されている「地域社会を基盤とする支え合いや秩序ある行動性」などの豊かな人間性を、「よさや美しさ」という価値につなげたいというものであった。さらに、各会における情報交換においては、「教職員の高齢化」「図工・美術教諭の減少」「組織維持の困難さ」などが話題となった。

午後からは文部科学省の岡田・東良各調査官より対談形式でご指導をいただいた。そこでは、あらためて「子どもの思いや発想に寄り添った授業づくりの大切さ」を学んだ。また、彫刻家・画家の武藤順九氏による記念講演においては、教育と日本文化の重要性や役割などの関わりを、地域の特産である「雄勝硯」の復興に重ね合わせて熱く語っていただいた。

#### 11日（金）校種別授業公開

公開内容が多岐に亘り、会場等も細分化され見所満載であるにもかかわらず、運営全体がスムーズに流れ、各セッションにおける発表・分科会等の充実も十分に感じ取れる素晴らしい大会で会った。

神代中学校 小林 高太郎

#### 2 小学校の授業を参観して

小学校は、2会場で10の授業が提示された。

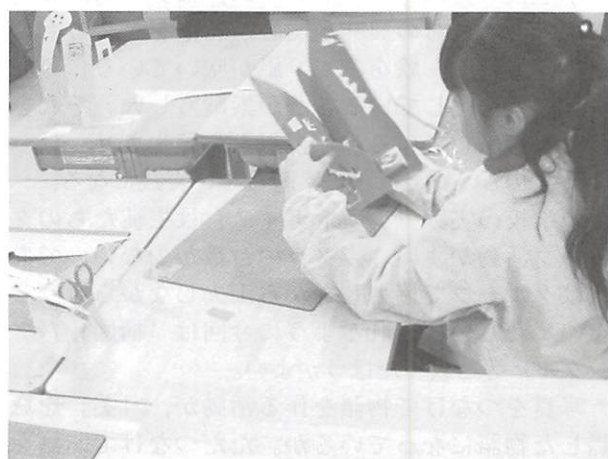
【2年 せかいいさんとどうろく！？オリジナルタワー】

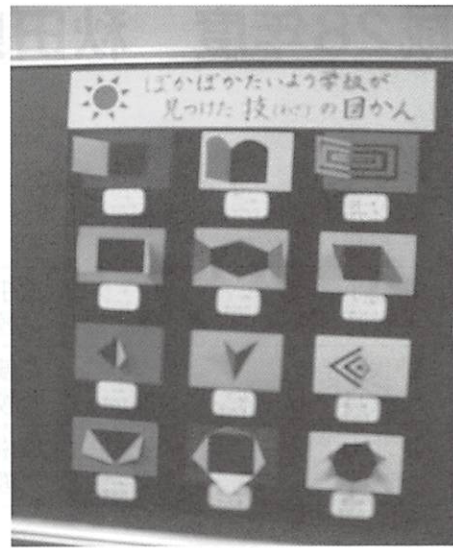
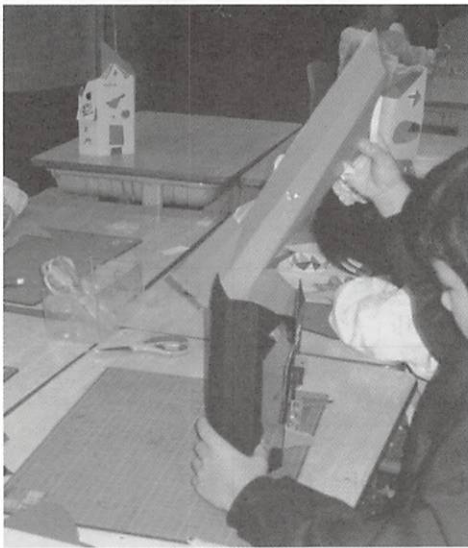
カッターナイフで両面色違いの造形紙を、切り抜いたり切り起こしたりしながらできた複数の形を組み合わせて立体的な「タワー」をつくる活動であった。

授業の中で一番感心したのが、「子どもたちがよく見ている」ということである。切ったり折ったりすることによって形を変えていく自分の作品を、下からのぞき込んだり、立ち上がって上から見たり、回転させながら眺めたり・・・そして「あ、いいこと考えた」「ねえ、ここどう？」とつぶやきながら、作り続けていく。両面色違いの造形紙にあげられた穴や紙の高さの違いなどから生まれる色の組み合わせの面白さ、重ね方や置き方を確かめ、友達と交流する時間の確保などの手立てが、子どもたちに「見る楽しさ」「見ながらつくる確かさ」に気付かせていると思われる。

壁には、子どもたちが見つけた「技」がきれいに整理して貼られており、迷った時にいつでも確かめることができる。また、小学2年生とは思えないほど、カッターの使い方が身に付いていることに、日常の指導の大切さを改めて感じた。

仙北中学校 門脇 伸子





### 3 中学校の授業を参観して

中学校は「創造力でつながるわたしの世界」を研究主題とし、創造力を生み出す三つの「つながり」を「歴史や文化とのつながり」、「形や色彩とのつながり」、「地域や社会とのつながり」と設定し、それぞれの公開授業が行われた。その中で、仙台市博物館で行われた「歴史や文化とのつながり」の1年生と2年生の授業を参観した。

1年生の「屏風絵の鑑賞」は、「対話による鑑賞法」を基に、博物館蔵の長沢芦雪「白象黒牛図屏風」の原寸大レプリカを扱って行われた。六曲一双を少しずつ開いていく提示方法の工夫や、生徒の発言を引き出してつなげ、「対」のキーワードに導く進め方に感心した。本物に近い作品のもつ力にどんどん引き込まれ、思いを話し合い、互いに共感しながら、生徒は授業のねらいを達成していた。終末の生徒の感想にあった「鑑賞を通して人生を学びたい」に、会場の参観者からも思わず感心する声が聞こえていた。

また、2年生は、「柳生和紙の魅力を伝えよう」を題材にランプシェード制作が行われた。七夕飾りとも関わりのある仙台藩主伊達正宗が始めさせた柳生和紙は、光の透け方も美しく魅力的な材料である。さらに、「デザインのコンセプト」として使用者や設置場所などを明確にし、かつ交流することで、主体的、協働的な学びとなっていた。

どちらの授業も郷土愛を育む「つながり」を意識し、博物館との連携や伝統工芸の継承などを重視した、豊かな情操を育むことができると感じられた授業であった。

東雲中学校 渡部悦子



# 平成28年度 秋田県造形教育研究会役員

会 長	二ツ井小学校 校長 佐々木 彰 子		
副会長	山瀬小学校 校長 永 井 孝 久	太平中学校 校長 鎌 田 悟	朝倉小学校 校長 奥 秀 輝
	神代中学校 校長 小 林 高太郎	花輪第二中学校 校長 木 村 伸	
監 事	港北小学校 教諭 工 藤 圭 文	城南中学校 教諭 土 門 正 佳	

地 区	会 長	事務局	研究部
鹿 角	花輪第二中学校 校長 木 村 伸	花輪小学校 教諭 田 中 繁 子	花輪第一中学校 教諭 関 清 志
大 館 北 秋	山瀬小学校 校長 永 井 孝 久	北陽中学校 教諭 コリガン 麻衣	鷹巣中学校 教諭 工 藤 明 美
能 代 山 本	二ツ井小学校 校長 佐々木 彰 子	東雲中学校 教諭 渡 部 悦 子	能代第一中学校 教諭 田 森 舞
男 鹿	船川第一小学校 校長 桐 生 登志夫	船川第一小学校 教諭 上 田 環	男鹿東中学校 教諭 中 川 努
潟 上 南 秋	東湖小学校 校長 加 藤 順 子	天王南中学校 教諭 都 留 賀津人	天王南中学校 教諭 都 留 賀津人
秋田市	太平中学校 校長 鎌 田 悟	土崎中学校 教諭 鎌 田 政 美	城東中学校 教諭 松 田 清 悦
本 荘 由 利	象潟中学校 教諭 石 井 真理子	本荘北中学校 教諭 木 内 衛	象潟小学校 教諭 関 口 琢 也
大 曲 仙 北	神代中学校 校長 小 林 高太郎	大曲中学校 教諭 菊 地 伸	大曲中学校 教諭 渡 邊 真理子
横 手	朝倉小学校 校長 奥 秀 輝	横手北中学校 教諭 高 橋 輝 樹	平鹿中学校 教諭 柴 田 緩 子
湯 沢 雄 勝	湯沢南中学校 教頭 加 藤 久 夫	羽後明成小学校 教諭 三 浦 秀 巳	湯沢南中学校 教諭 仙 道 真理子

幹事長	本荘北中学校 教諭 木 内 衛	
研究部長	土崎中学校 教諭 鎌 田 政 美	
副幹事長	四ツ小屋小学校 教諭 小 野 哲	秋田北中学校 教諭 三 浦 直 樹
幹 事	御所野小学校 教諭 松 田 由紀子 (会計)	御野場中学校 教諭 齋 藤 未 樹 (造形秋田)

**秋田県造形教育研究会事務局**

〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋街道東256-1

TEL 018-839-2050

FAX 018-839-2964

秋田市立四ツ小屋小学校

小野 哲



